

## 4-3 施設計画

### 4-3-1 配置計画

#### (1) 看護学校の建物

学生定員、男女学生、カリキュラム、授業時間等から本計画に必要な建物を次の通り計画する。

表4-3 建物

建 物	階 数	棟 数	面積 (m <sup>2</sup> )
管 理 棟	2	1	516.0
講 議 棟	2	1	2,080.0
共 用 棟	1	1	372.0
宿 舎 棟	(女)	6	3,828.0
	(男)	1	
	(卒後)	2	
その他、機械室		—	240.0
合 計			7,036.0

#### (2) 敷地利用計画および建物配置計画

- 1) 敷地の地勢および自然環境を生かし、建物配置計画を行う。
- 2) 建物は原則として受熱量・日射量の最も少ない東-西軸配置とする。西日をさけ、自然通風を利用できる建物配置とする。
- 3) 学校のパブリック空間と寄宿舎の生活空間を明確に分離して、それぞれの独立性を確保する。
- 4) 学校のパブリック空間は比較的平坦で、前面道路に面した敷地西側の一角とする。
- 5) 寄宿舎は学校パブリック空間および前面道路から離れ、静かで眺望を楽しむことができ、自然に囲まれた敷地東北部、および南西部に配置する。自然の地勢を利用し、大きな東北部の尾根に女子棟を、南西部の尾根に男子棟を配置し、谷で区分する。
- 6) 校舎ブロックと2つの寄宿舎ブロックで囲まれた中央部の谷間は、運動場・レクリエーション・課外活動のための空間とする。
- 7) 学校のパブリック空間は、一般教室ブロック、特別教室ブロック、管理ブロック、講堂、共用棟（食堂・学生ホール等）などそれぞれの機能毎に明確に分離の上、中庭を囲んで配置し、地盤の高低差を生かして、変化のある空間・帰属感のある空間を創造する。

8) 前面道路からのアプローチは、パブリック空間へのアプローチとサービス用および寄宿舎生活空間へのアプローチの2ヶ所とする。それぞれのアプローチは学校への出入が容易に監視できるように計画する。

メインアプローチとなるパブリック空間への接続は、道路交通騒音を遮断できるだけの距離をとり、学校の各ブロックをつなぐ中庭へ余裕をもって誘導できるだけの空間を確保する。

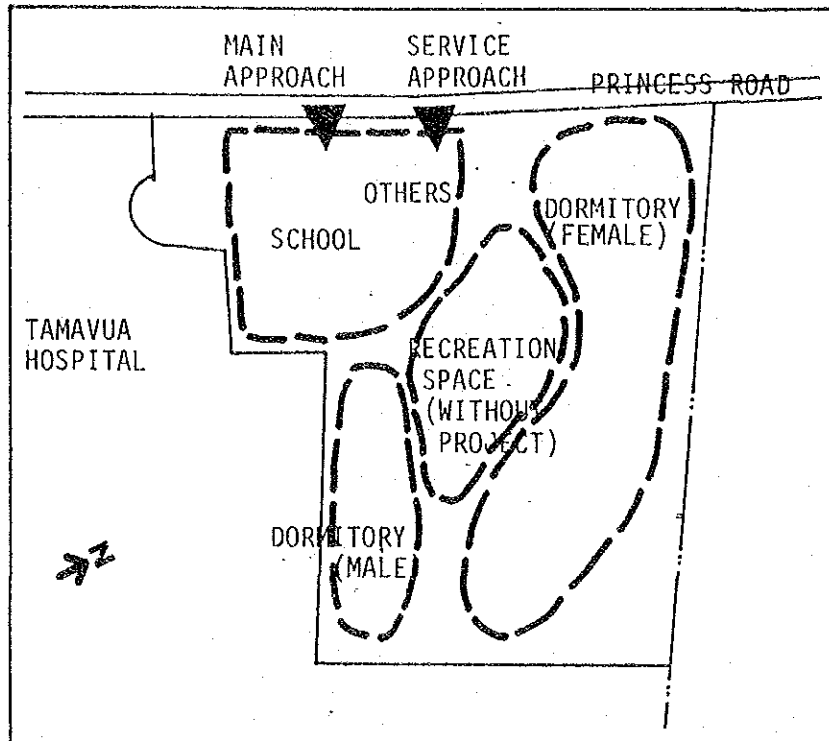


図 4-6 敷地利用計画図

#### 4-3-2 建築計画

##### (1) 施設構成

建築施設は次の5つの部門から構成される。

- 1) 管理部門 — 玄関、受付、事務室、校長室、副校長室、助産婦教師室、保健婦教師室、一般教師室、秘書室等
- 2) 教育部門 — 一般教室(30人用・60人用)、階段教室(120人用)、図書室、講堂、調理実習室、実験室、看護実習室、リネン室、倉庫
- 3) 共用部門 — 学生ラウンジ、食堂及厨房
- 4) 宿舎部門 — 男子宿舎、女子宿舎、卒後教育学生宿舎
- 5) その他 — ポンプ室、電気室等機械室

(2) 建築施設計画

建築施設は次の項目をもとに計画する。

- 1) 建物内は特定の部分以外冷房設備を施さない自然換気方式とし、通風を考慮して片廊下方式とする。
- 2) 建物内を直射日光や豪雨から守るため、積極的に庇やルーバーを設ける。
- 3) 玄関、廊下等は壁のないオープンなものとし、開放感のある学校とする。
- 4) 耐火性、安全性等を充分考慮した計画とする。

(3) 普通教室（座学教室）必要数の検討

基礎看護学コースの、ツー・インターク・システムによるクラス数は表4-4の通り12となる。これに卒後教育コース2クラスを入れると合計14クラスとなる。

表4-4 ツー・インターク・システム

学 年	Ⅰ 学 年			Ⅱ 学 年			Ⅲ 学 年		
前期入学	1	2		5	6		9	10	
後期入学			3	4		7	8		11 12

校内の授業単位は4つに分類される。

1) 30人クラス、 2) 60人クラス、 3) 120人クラス、 4) 全校生400人  
基本となるクラスは、実習病院の受入事情から、30人クラスとなる。同期入学の60人クラスは2分されて、一方が座学の時は他方は病院実習というプログラムが組まれる。

日本厚生省の規則では、全てのクラスに専用教室が必要であるが、本校においては、以上の理由から30人クラスは、8教室（基礎コース6+卒後コース2）が用意される。その他の授業単位は、最少限の1教室をそれぞれ設置する。全校生対象のものは、講堂とする。

特別教室（看護実習室・調理実習室・実験室）は、最小の30人単位とし、それぞれ必要最少限の1教室を設置する。

表4-5 教室数

30人クラス（普通教室）	8教室
60人クラス（セミナー室）	1
120人クラス（階段教室）	1
全 校 生（講 堂）	1
看護実習室	1
調理実習室	1
実 験 室	1

同時期に在籍する生徒が全員学校に居る場合を想定して、机の数だけは在校生総数を下廻らないよう考慮されている。

$$\text{在校生総数 } 400 \text{ (基礎コース } 360 + \text{ 卒後コース } 40) < 420 \begin{pmatrix} 30 \text{ 人教室} \times 8 \\ 60 \text{ " } \times 1 \\ 120 \text{ " } \times 1 \end{pmatrix}$$

(4) 管理部門

校長、副校長、助産婦教師、保健婦教師には各々個室を設け、一般教師（16人）は5室に分散させる。事務室は4人の事務員が執務できるスペースを確保する。

(5) 教育部門

主な部屋の計画要点を次に示す。

1) 一般教室、階段教室

一般教室は、30人用教室、60人用教室（セミナー室）、120人用教室の3種類とし、各室数はその利用率を検討し算定した。

表 4-6 教室数と利用率

教室	教室数	利用率(%)
30人用	8	62.0
60人用	1	93.9
120人用	1	33.9

これらの利用率は、学科時間数、学生の移動時間等に無理があり、利用率80%程度が限界値であると考える。上記の場合、60人用教室の利用率がかなり高いが120人用教室との併用で運用可能と判断した。

各教室の規模は学生数をもとに、机の寸法と配列により検討した。

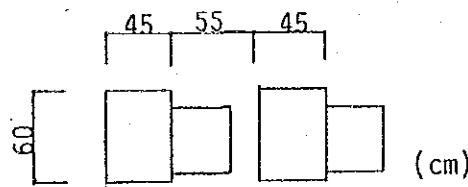
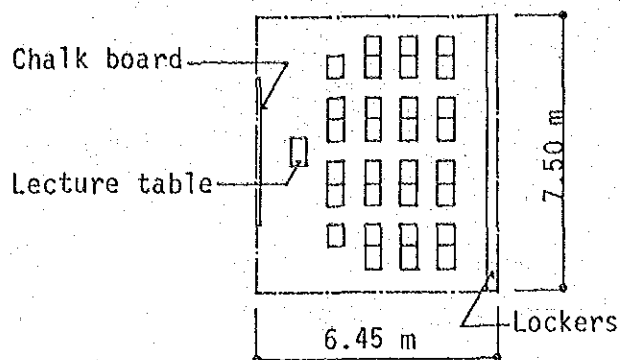


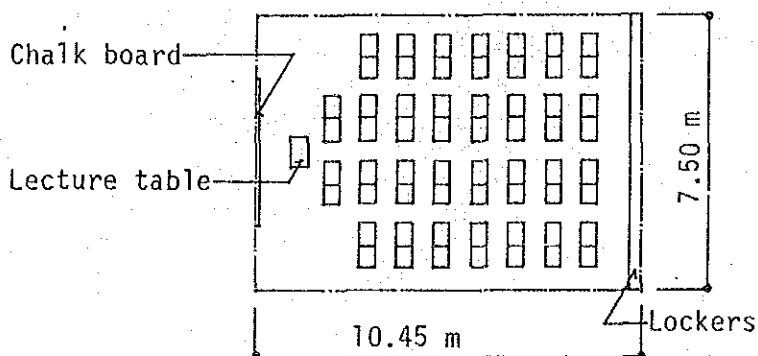
図 4-7 机の大きさと同隔



面積：  $6.45 \text{ m} \times 7.50 \text{ m} = 48,375 \text{ m}^2$

単位面積：  $48,375 \text{ m}^2 \div 30 \text{ 人} = 1.61 \text{ m}^2/\text{人}$

図 4-8 30人用教室の検討



面積：  $10.45 \text{ m} \times 7.50 \text{ m} = 78,375 \text{ m}^2$

単位面積：  $78,375 \text{ m}^2 \div 60 \text{ 人} = 1.31 \text{ m}^2/\text{人}$

図 4-9 60人用教室（セミナー室）の検討

## 2) 図書室

収容人員が60人であることと、想定図書数（2,200冊）として図書室の規模を設定した。

## 3) 講堂

400人収容とし、ステージ、映写室、倉庫を設けた。

## 4) 調理実習室

学生定員30人とし、調理台のタイプを島型として計画した。

## 5) 化学実験室

学生定員30人とし、演示実験廻りのスペース確保、学生の実験スペースと通路の関係等を考慮して計画した。薬品室、天秤室等は特に設けず、準備室に集約した。

6) 看護実習室

学生定員30人とし、実習に際して、ベッド廻りに十分なスペースをとった。又、実習機材の収納スペースを設け、リネン庫は看護実習室に隣接して計画した。

(6) 共用部門

1) 学生ラウンジ

定員は60人とした。

2) 食堂及厨房

食堂の収容人員は80人とした。これは学外での実習と時間当り3交代と設定して計画した。厨房は、食堂面積の30%の計画とした。

(7) 宿舎部門

フィジーの実情に合せ、基礎看護学生は1室2人、卒後教育学生は1室1人とした。基礎看護男子学生と卒後教育学生はそれぞれ1棟にまとめ、他の基礎看護女子学生は学年別に棟別とした。それぞれの棟にシャワー、便所、洗濯のスペースを設けた。

(8) その他

設備機械室等

ポンプ小屋、受変電室、受水槽、高架水槽等。

(9) 以上の各部門の配置図、平面図、立面図、断面図は4-3-6基本設計図書に添付した。

又、各部門各室の面積は次のとおりである。

表4-7 各室の面積

部 門	室 名	室 数	面積 (m <sup>2</sup> )	延面積 (m <sup>2</sup> )
管理部門	玄 関	1	72.0	
	受 付	1	12.0	
	事務室	1	24.0	
	校長室	1	24.0	
	副校長室	1	12.0	
	卒後教育教師室	2	12.0×2	

部 門	室 名	室 数	面積(m <sup>2</sup> )	延面積 (m <sup>2</sup> )
	一般教師室	5	96.0	516.0
	秘書室	1	12.0	
	会議室	1	24.0	
	相談室	1	48.0	
	保健室	1	24.0	
	廊下・便所等	—	144.0	
教室部門	一般教室30人用	8	48.0×8	2080.0
	60人用	1	96.0	
	(階段教室)120人用	1	180.0	
	図書室	1	204.0	
	講 堂	1	468.0	
	調理実習室	1	72.0	
	実験室	1	96.0	
	看護実習室	1	168.0	
	リネン室	1	24.0	
	準備室	1	24.0	
	倉 庫	1	24.0	
	廊下・便所等	—	340.0	
共用部門	学生ラウンジ	1	102.0	372.0
	食堂及厨房	各1	270.0	
宿舎部門	基礎看護学生宿舎	180	10.8×18.0	3828.0
	{ 女子	{ (168)		
	{ 男子	{ (12)		
	卒後教育学生宿舎	40	7.2×4.0	
そ の 他	機械室	—	240.0	240.0
床面積合計				7036.0

(10) 建築構法と材料

フィジー国で現地調査した建築資材、構法を基に躯体・仕上材の選定を行った。基本的にフィジーでの一般構法・材料を選定した。以下に主な構法と材料を挙げる。

1) 軀 体

鉄筋コンクリート造とする。

屋根構造は現地の一般構法である木造トラスを使用し、スパンの長い講堂は鉄骨トラスとする。帳壁も現地一般構法であるCB造と木造を併用する。

## 2) 外部仕上材

- ・外 壁：モルタル下地ビニールペイント仕上を基本とする。
- ・屋 根：長尺亜鉛鍍鉄板とする。断熱に充分注意する。
- ・建 具：マドは現地産のジャロジータイプを基本としドア木製を除き輸入品を考慮する。

## 3) 内部仕上材

- ・床：P-タイルを基本とし、部屋の使用用途に応じて変更する。
- ・幅 木：プラスチックを基本とする。
- ・壁：ビニールペイント仕上を基本とし、部屋の使用用途に応じて変更する。
- ・天井：基本的に化粧天井は貼らない。

### 4-3-3 構造計画

フィジー国では建築構造・構法に係る法規や基準はなく、イギリス規準(BS)をもとにしたニュージーランド規準(NZS)を準用して設計されている建物が多い。ニュージーランド規準にはイギリス規準にない地震の規定を盛り込んでいる。

本計画はニュージーランド規準に準拠し、これにフィジーの実情を考慮し、修正の上適用する。又必要に応じて、日本の建築基準法、日本建築学会設計規準(AIJ)を参考にする。

#### (1) 構造計画

##### 1) 架 構

架構はフィジーの一般的構法である鉄筋コンクリート・ラーメン構造及びコンクリートブロック造とする。

床版は鉄筋コンクリート造とする。

屋根は木造及び鉄骨トラスとする。

##### 2) 基 礎

敷地内の地質調査の結果、地盤面より1mのローム層を支持層とした直接基礎(独立基礎又は布基礎)とする。

#### (2) 構造設計基準

##### 1) 構造解析

弾性設計とする。

##### 2) 断面設計

鉄筋コンクリート造は終局強度法に基づき、屋根の一部に使用する鉄骨造は許容応力度



に基づき設計する。

3) 荷重条件

a. 積載荷重

表4-8 積載荷重

部 門	室 名	積載荷重 KN/m <sup>2</sup>
管理部門	事務室・会議室等	2.5
教育部門	教室・実験室等	3.0
	図書室	4.0
共用部門	ラウンジ、食堂	3.0
	厨房	4.0
宿舎部門	寮室	1.5

b. 地震力

ニュージーランド規準を参考に設計する。

水平震度 (Cd) は下記により算出した。

$$Cd = C \cdot I \cdot S \cdot M \cdot R = 0.026$$

C : 地域係数 = 0.125  
Seismic zone factor

I : 重要度係数 = 0.13  
Important factor

S : 構造種別係数 = 1.0  
Structural

M : 構造材料係数 = 1.0  
Structural material factor

R : 危険係数 = 1.6  
Risk factor

(3) 構造材料と材料強度

1) コンクリート

普通コンクリートを使用する。

設計基準強度  $F_c = 210 \text{ Kg/cm}^2$  (28日圧縮強度)

2) 鉄 筋

表4-9 鉄 筋

鉄 筋	規 格	降伏強度 (Kg/cm <sup>2</sup> )
丸 鋼	SR-24	2,400
異 型	SD-30	3,000
	SD-35	3,500

3) 鉄 骨

表4-10 鉄 骨

鉄 骨	規 格	強 度 (Kg/cm <sup>2</sup> )	
		長 期	短 期
鋼 材	SS41	1,600	2,400

4) 地耐力

長期10 t/m<sup>2</sup>とする。

4-3-4 機械設備計画

(1) 給水設備

上水引込は敷地迄ファイジー国負担工事とする。建設地前面道路の225mm埋設水道管路より分岐される。引込の分岐管路は、水道量計測メーター経由で構内受水槽へ導びかれる。

受水槽の水は、揚水ポンプによって高置水槽へ送られ重力を利用して校舎、宿舍の衛生器具、厨房器具など必要箇所に供給される。

表4-11 使用水量

部 門	計 算
学 校	教 師            24人×100ℓ= 2,400ℓ
	学生(最大)      400人× 80ℓ=32,000ℓ
	その他職員      18人× 70ℓ= 1,260ℓ
	厨 房      260食×3回× 15ℓ=11,700ℓ
	小 計 47,360ℓ
宿 舎	学生(最大)      400人×120ℓ=48,000ℓ
	小 計 48,000ℓ
合 計	47,360ℓ+48,000ℓ
	=95,360ℓ
	÷95m <sup>3</sup> /日

(2) 給湯設備

宿舍に於ける給湯はシャワー室、湯沸室とする。シャワー用の熱源はソーラー方式パネルより集熱し、各棟に設置した貯湯槽よりシャワーに給湯する。電気・油等の補助熱源、ボイラーはエネルギーコスト低減のため使用しない。

学生用の飲料給湯は安全・衛生を考慮して小型の電気湯沸器を各棟に設ける。厨房用等の個別使用の給湯はブタンガス湯沸器とする。

#### (3) 排水設備

汚水・生活排水の排水管路は、屋内分流方式とし、屋外へ出た第1枳にて合流させる。合流管路は敷地低部に設ける浄化槽に導き、浄化処理後クリークに放流する。現在計画中の公共汚水管路施設が将来完成されれば、直接放流となる。

雨水については雨水樋、構内排水路を必要箇所に設け、直接クリークへ放流する。屋外排水はフィジー国政府の実施する造成工事の範囲となるので、雨期に地すべり等被害が出ない様構内排水に充分注意をうながし、計画にあたってはフィジー国と協議する。

#### (4) 衛生器具設備

大便器、小便器、洗面器、掃除用流し、シャワーなど必要箇所に使用する。便器類には節水型のフラッシュバルブを使用する。

#### (5) 換気設備

今回の施設計画に冷房設備は特に設けず、建物配置、庇、ジャロジー窓にて直接日光のしゃへい、自然通風をはかる。講堂、食堂、図書室など収容人数の多い室には天井扇、換気扇を一部使用し機械換気をはかる。

便所、シャワー室、実験室など臭気、湿気を生ずる室には換気扇を設置し、強制換気を行う。

#### (6) ガス設備

厨房用として、ブタンガスによる集合配管設備を設ける。ポンベは高圧50Kgを予定し厨房外部に設置し、トレンチ配管にて厨房器具へ連絡する。

実験室用ガス設備は10Kgまたは5Kgポンベを搬入して個別に対応するものとする。

#### (7) 厨房設備

宿舎に住う学生および教職員、外来者のために厨房設備を設ける。設備能力は校外実習などで不在の学生を160人(40%)とし、在校生240人、プラス教職員20人、合計260人で計画する。食事は一時間3回交代で行うものとする。厨房器具はフィジーの一般的な料理が調理できるよう調理台、流し、炊飯器、菜煮機、蒸焼機、消毒機などを設備する。

(8) 消防設備

ニュージーランド消防法を参考にし、日本の消防法規程に準拠して消火器、屋内消火栓の設置を計画する。消火栓は建物の25mの範囲に各1ヶ所設置する。消火栓用ポンプは揚水ポンプと同じポンプ室に設置し非常時を考慮して電源は電気室より直接受電するものとする。消火栓の設置は日本の消防法規程により校舎部分のみとする。

(9) ゴミ焼却設備

日常ゴミ（厨房ゴミ、清掃ゴミ）や学校不要書類の焼却用に焼却炉を1基設ける。焼却炉は油、電気をを用いない一般型とし、一日の処理能力は100Kgとする。

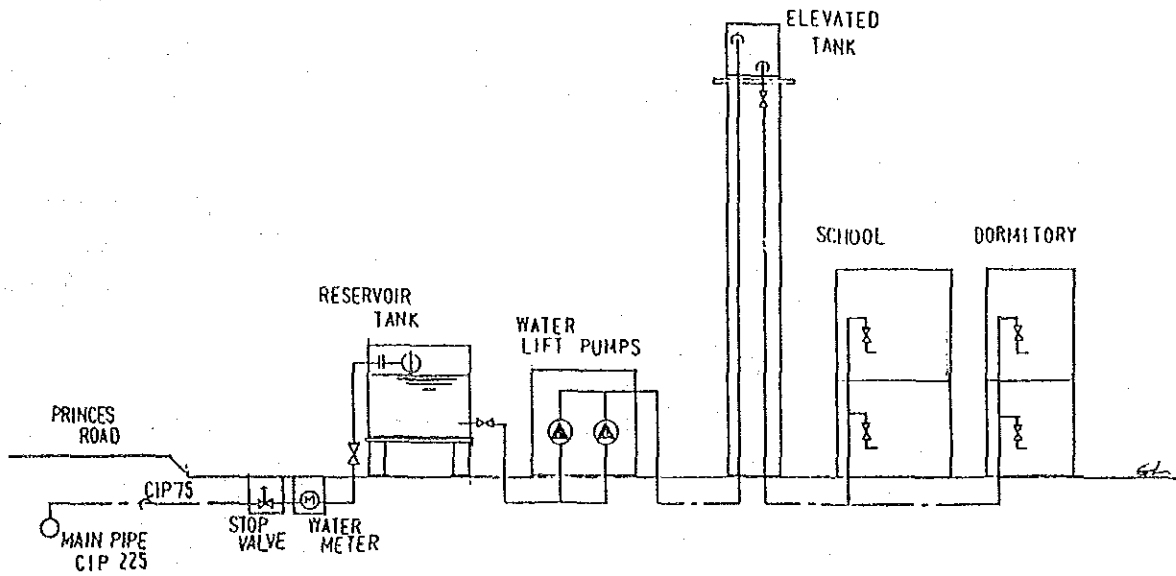


図 4-10 給水システム

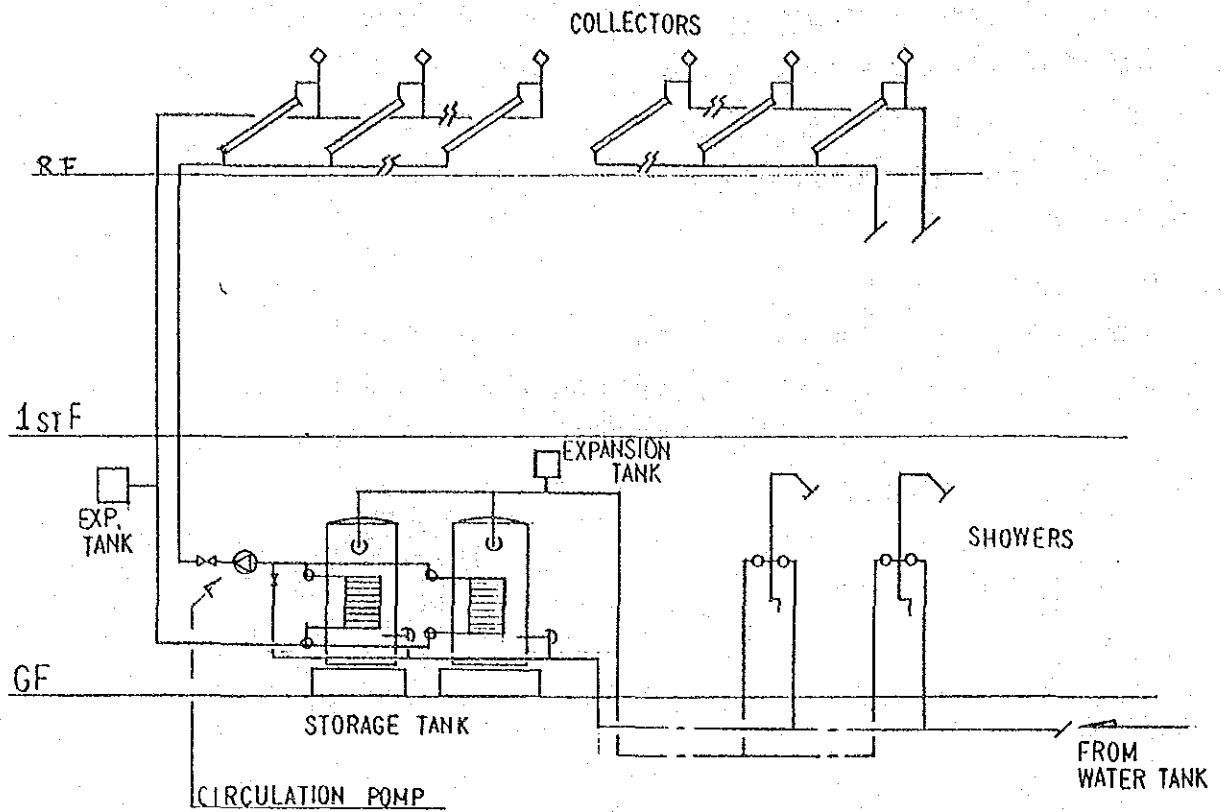
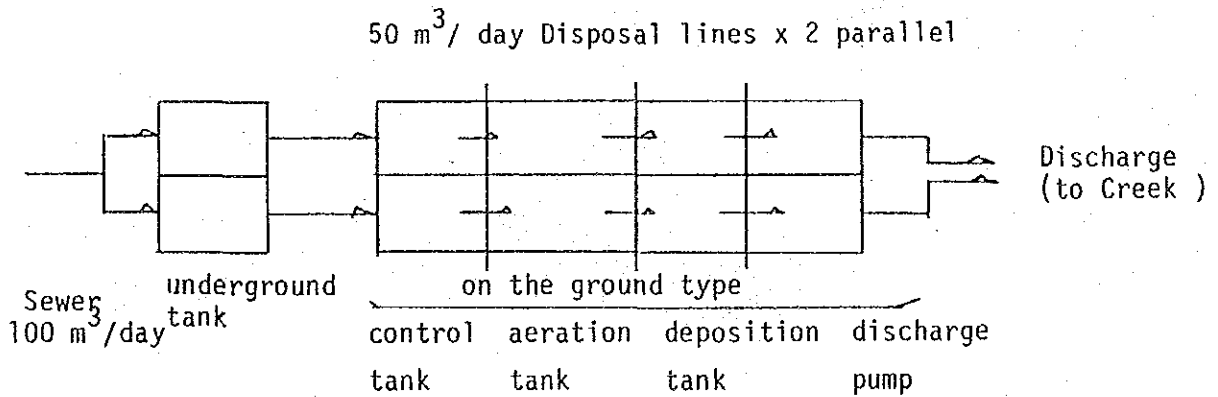


図 4 - 1 1 宿舎給湯システム



汚水処理施設

処理水量 100 m<sup>3</sup>/ day

放流水質 BOD 20~30 ppm

処理方式 CONTACT-AERATION SYSTEM

図 4 - 1 2 汚水処理施設

#### 4-3-5 電気設備計画

##### (1) 電力引込設備

電力引込設備は敷地までをフィジー国側負担工事とする。敷地の前面道路に配電されている電力会社の11KV架空電力線より敷地内変電所へ地中ケーブルにて引込むものとする。電気定格は3相3線50ヘルツ1回線とする。

##### (2) 受変電設備

構内電気室にて受変電を行う。電気室の管理はフィジー電力公社(FIJI ELECTRICITY AUTHORITY)が行うので鍵付ドアを外部通路に面して設ける。電気室内の構成は開放自立型配置とする。

構内へは低圧配電盤を経由して配線をする。(図4-13)

電力設備容量	200 KVA
電圧定路	11 KV/415 V-240 V
配線方式	3相4線、50 HZ
電圧降下	5%以下

##### (3) 幹線・動力設備

幹線は校舎及び各棟へケーブルにより配線する。

外部管路は塩害、腐蝕対策を考えビニル系パイプを使用する。動力設備においてポンプは自動発停方式とし、力率改善コンデンサーを取付ける。

天井扇、換気扇の発停は手動操作にて行う。

##### (4) 電灯・コンセント設備

1) 配線は電気設備技術基準およびオーストラリア配線規定を適用する。使用電圧は単相240Vとし、すべての器具類には接地極を設ける。

使用電線はビニル絶縁電線又はケーブルとする。

2) 配管はフィジーにて通常使用されているビニル管方式とする。

3) 学校各室の照明の点滅は昼光利用を考えた計画とする。

4) 照明器具はエネルギー消費の少ない蛍光灯を主体とする。建物用途によっては一部白熱灯や高輝度ランプを使用する。

5) コンセントはスイッチ付のものを使用する。

6) 主要部分の照度基準は次のとおりとする。

表4-12 照度基準

場 所	照 度 基 準
教 室	300 lx
教職員室・実習室	400 lx
図 書 室	500 lx
ホ ー ル	100~200 lx
会 議 室	300~400 lx
寮 室	50~100 lx
廊 下 ・ 倉 庫	20~50 lx
食 堂	100~200 lx

(5) 電話配管設備

交換機、電話機及び配線は電話局（Post Telecommunication Department）によるリースとして計画する。

配管路は主配線盤（MDF）より校舎の教職員諸室、ホール、寄宿舍コモンスペースにアウトレットボックスにて接続する。管路サイズは一般キーテレホンが使用出来る28mm以上とする。

(6) インターホン設備

校舎の教職員室、事務室、大教室を連絡する相互インターホンを設ける。

(7) 放送設備

事務室に増幅器を設け、学校内に呼び出し放送、チャイム放送、非常用サイレン音放送が行える様計画する。

大教室、講堂には単独の増幅器を設置し、講義・講演が出来る様にする。

(8) 電気時計設備

ホール・食堂・大教室等の多人数収容部分に個別式の電気時計を設置する。

(9) 避雷設備

避雷針を高架水槽上端に設置する。

(10) 自動火災報知設備

校舎及び寄宿舎に熱式および煙式の火災検出器を設置する。受信機は事務室に設置する。  
 火災報知用押釦はベルの鳴動と消火栓ポンプ起動指令の兼用とする。

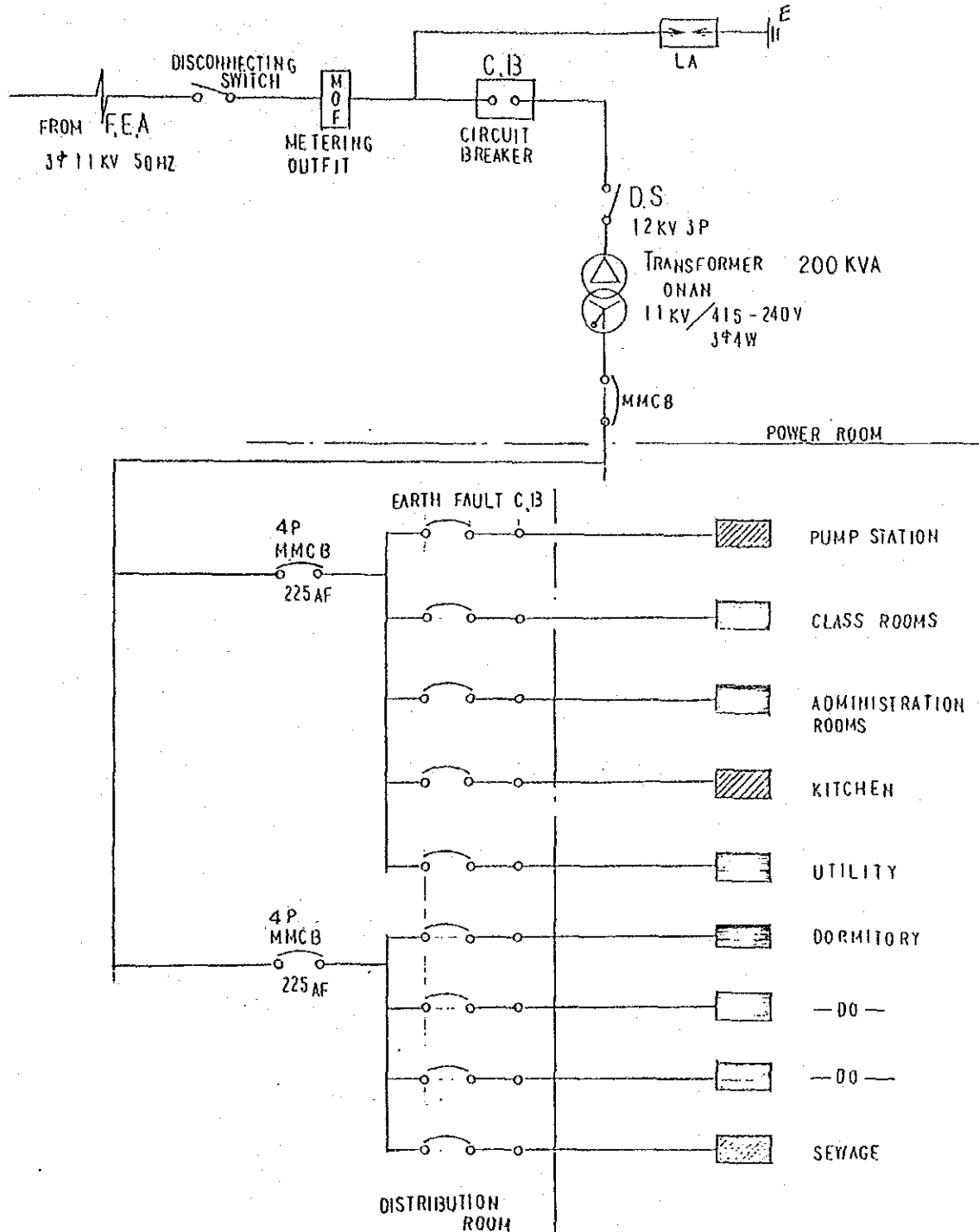


図 4 - 1 3 電力配線系統図



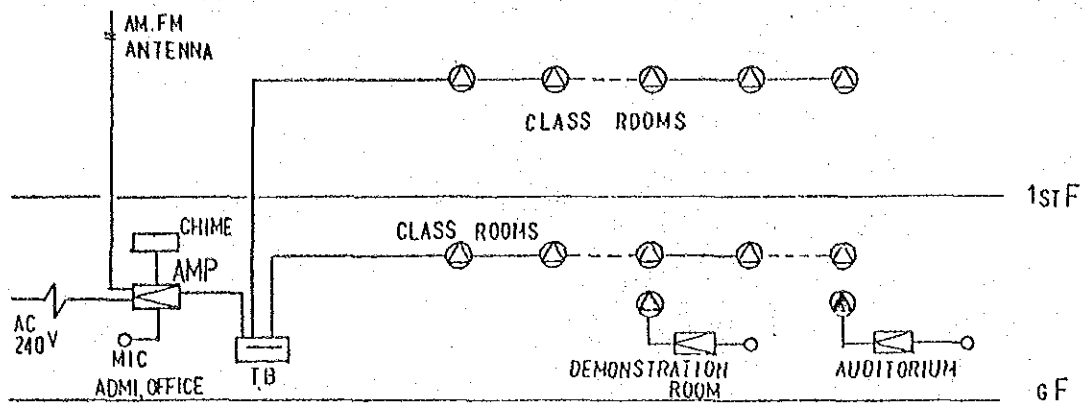


図 4 - 14 放送設備

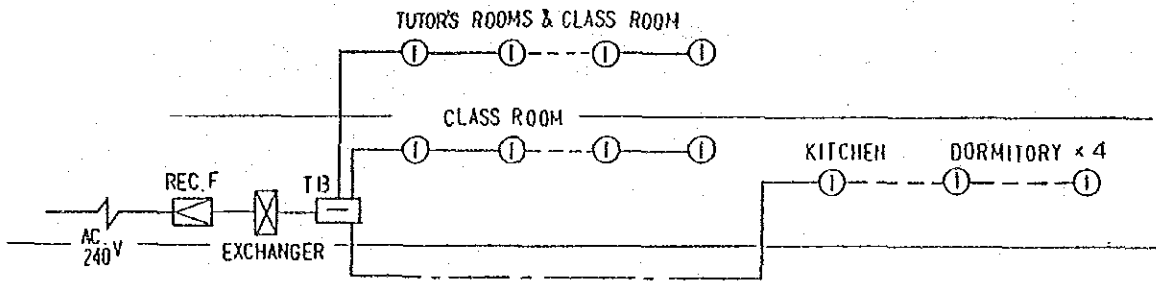


図 4 - 15 インターホン設備

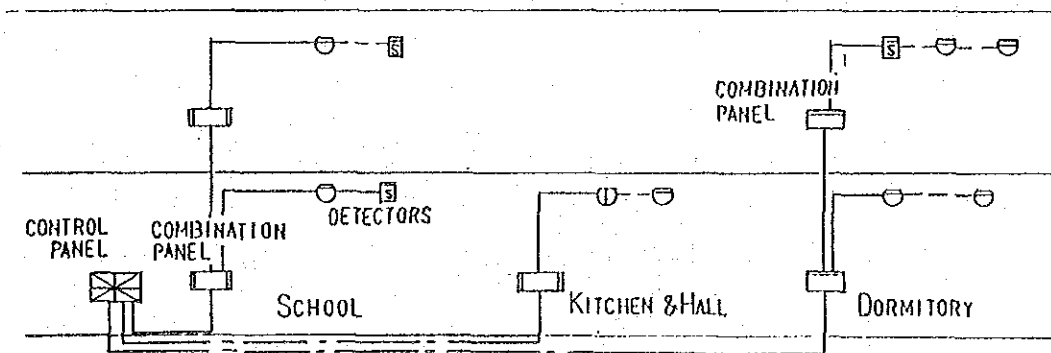


図 4 - 16 自動火災報知設備

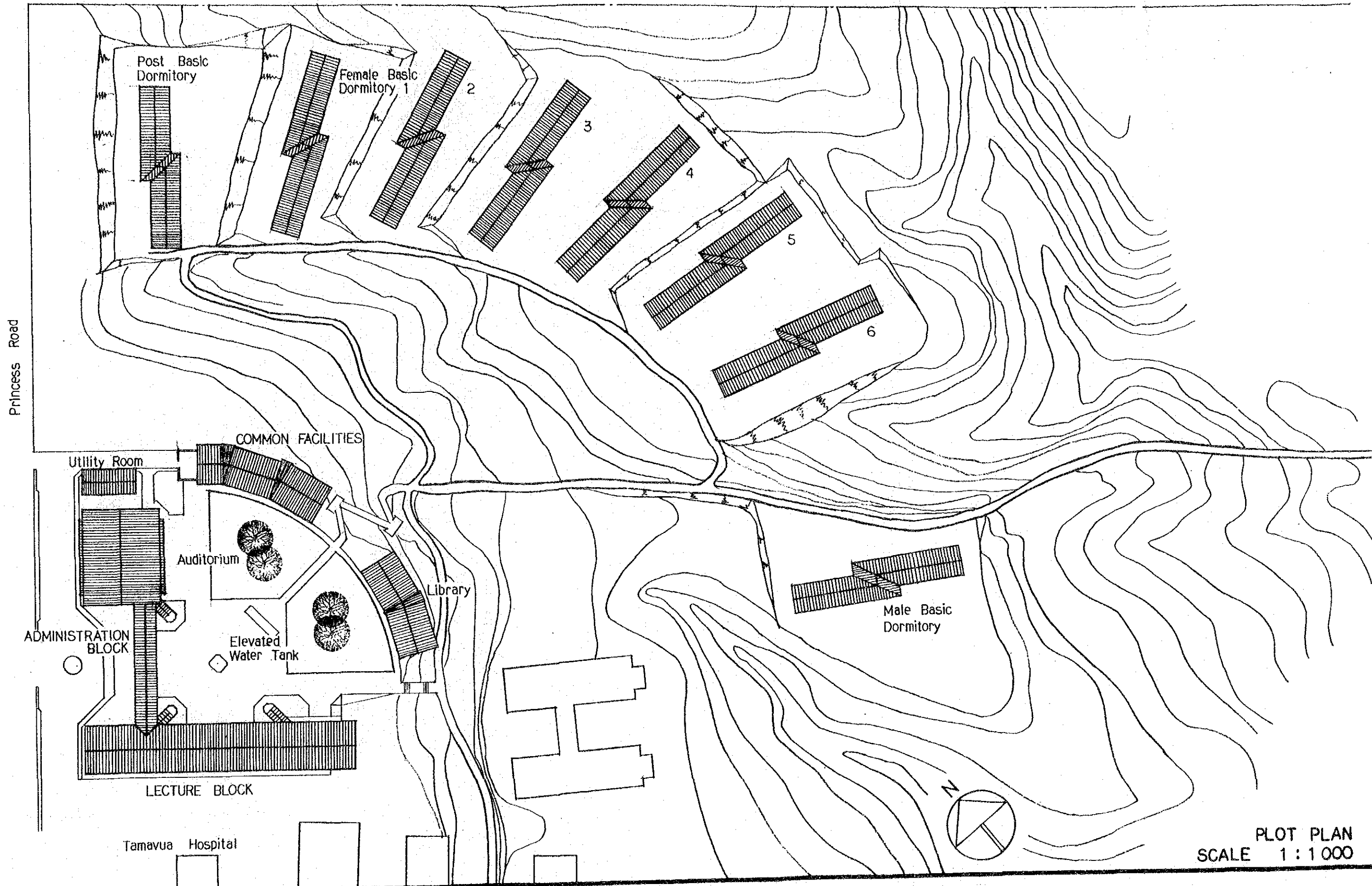
4-3-6 基本設計図書

	配置図	1 / 1,000
学校	1階平面図	1 / 500
	2階平面図	1 / 500
	立面図・断面図	1 / 300
	鳥観スケッチ	
宿舎	平面図・立面図	1 / 300
	断面図	

表4-13 面積表

(㎡)

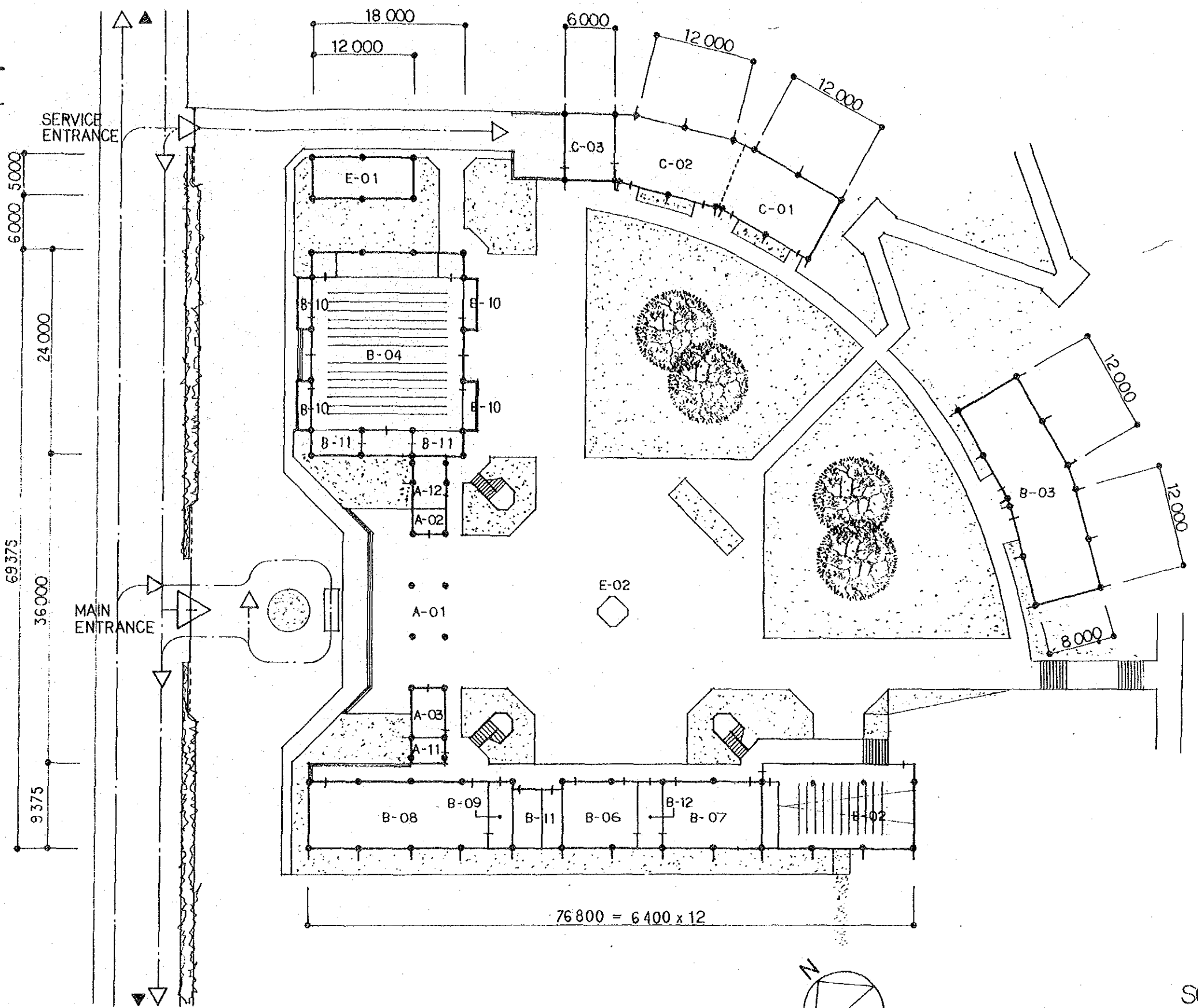
	部 門	面 積
学校	管理部門	516.0
	教室部門 講堂	1,584.0
		496.0
	共用部門	372.0
	その他	240.0
	小計	3,208.0
宿舎	基礎 { 女子 { 男子	3,081.6
		252.0
	卒後	494.4
	小計	3,828.0
合計		7,036.0



PLOT PLAN  
SCALE 1:1000

THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING

- BUILDING**
- A - ADMINISTRATION BLOCK**
- A-01 FOYER
  - A-02 RECEPTION
  - A-03 GENERAL OFFICE
  - A-04 PRINCIPAL'S ROOM
  - A-05 DEPUTY PRINCIPAL'S ROOM
  - A-06 MIDWIFERY TUTOR'S ROOM
  - A-07 PUBLIC HEALTH TUTOR'S ROOM
  - A-08 TUTOR'S ROOMS
  - A-09 SECRETARY ROOM
  - A-10 CONFERENCE ROOM
  - A-11 TOILET
  - A-12 FIRST AID
  - A-13 QUIET ROOM
- 
- B - LECTURE BLOCK**
- B-01 CLASS ROOMS
  - B-02 LARGE LECTURE ROOM
  - B-03 LIBRARY
  - B-04 AUDITORIUM
  - B-05 SEMINAR ROOM
  - B-06 COOKING LABORATORY
  - B-07 LABORATORY
  - B-08 DEMONSTRATION ROOM
  - B-09 LINEN STORE
  - B-10 STORE
  - B-11 TOILET
  - B-12 PREPARATION ROOM
- 
- C - COMMON FACILITIES**
- C-01 LOUNGE
  - C-02 CAFETERIA
  - C-03 KITCHEN
- 
- D - DORMITORY BLOCK**
- 
- E - OTHERS**
- E-01 UTILITY ROOM
  - E-02 ELEVATED WATER TANK



SCHOOL  
GROUND FLOOR PLAN  
SCALE 1:500

THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING

**BUILDING**

**A - ADMINISTRATION BLOCK**

- A-01 FOYER
- A-02 RECEPTION
- A-03 GENERAL OFFICE
- A-04 PRINCIPAL'S ROOM
- A-05 DEPUTY PRINCIPAL'S ROOM
- A-06 MIDWIFERY TUTOR'S ROOM
- A-07 PUBLIC HEALTH TUTOR'S ROOM
- A-08 TUTOR'S ROOMS
- A-09 SECRETARY ROOM
- A-10 CONFERENCE ROOM
- A-11 TOILET
- A-12 FIRST AID
- A-13 QUIET ROOM

**B - LECTURE BLOCK**

- B-01 CLASS ROOMS
- B-02 LARGE LECTURE ROOM
- B-03 LIBRARY
- B-04 AUDITORIUM
- B-05 SEMINAR ROOM
- B-06 COOKING LABORATORY
- B-07 LABORATORY
- B-08 DEMONSTRATION ROOM
- B-09 LINEN STORE
- B-10 STORE
- B-11 TOILET
- B-12 PREPARATION ROOM

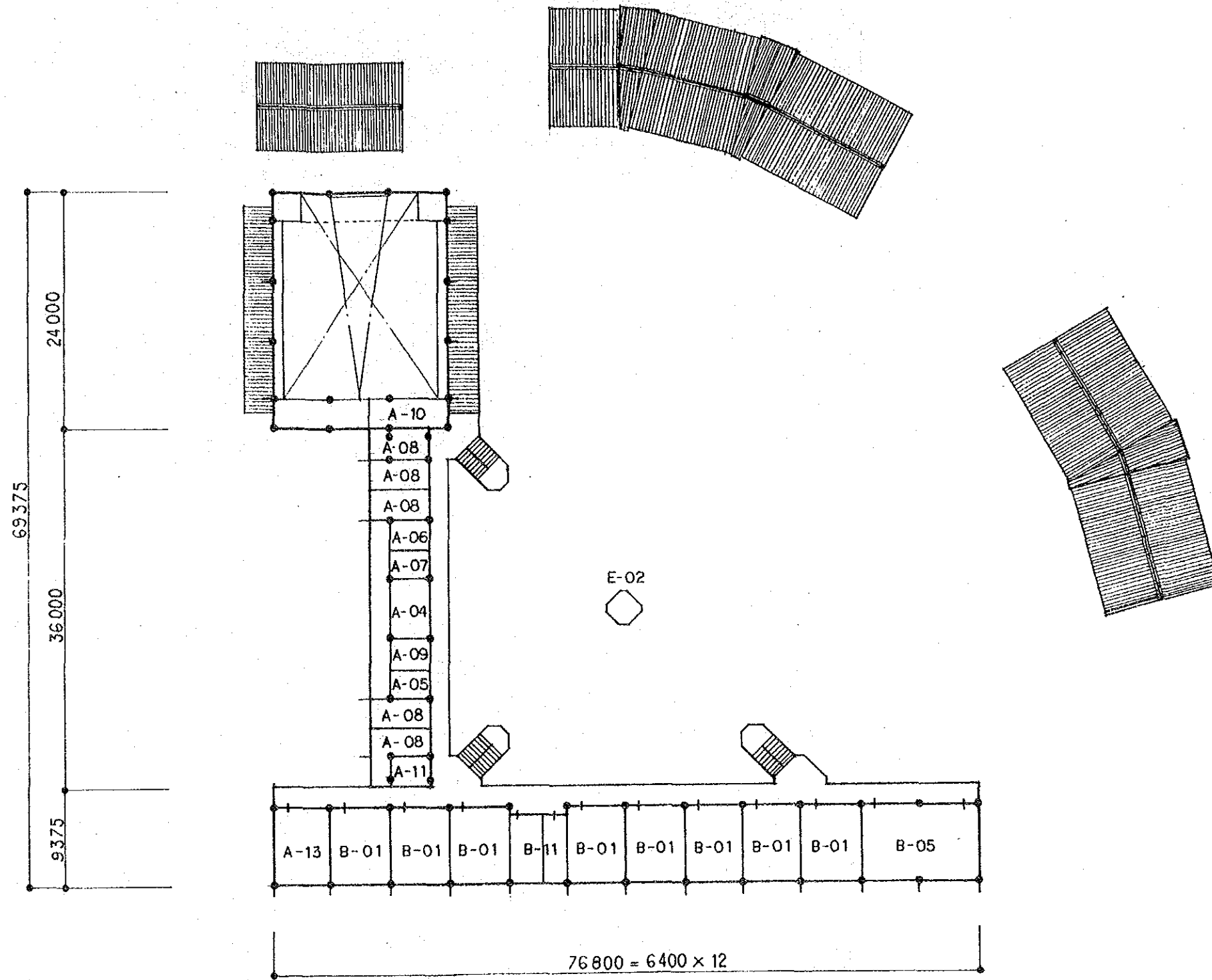
**C - COMMON FACILITIES**

- C-01 LOUNGE
- C-02 CAFETERIA
- C-03 KITCHEN

**D - DORMITORY BLOCK**

**E - OTHERS**

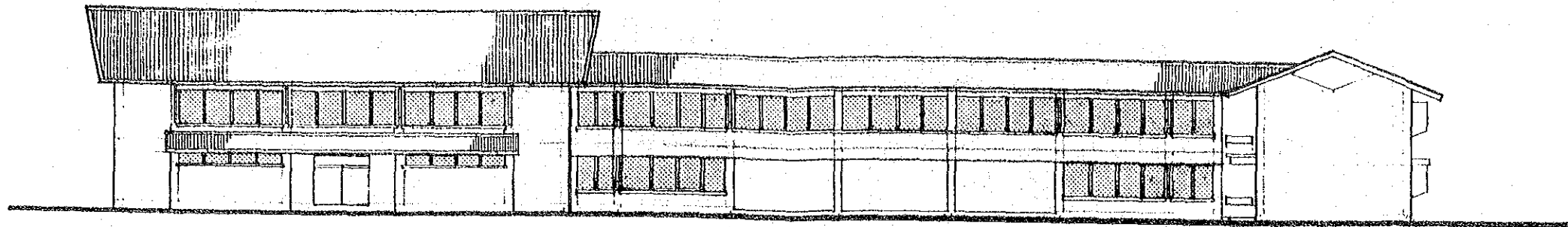
- E-01 UTILITY ROOM
- E-02 ELEVATED WATER TANK



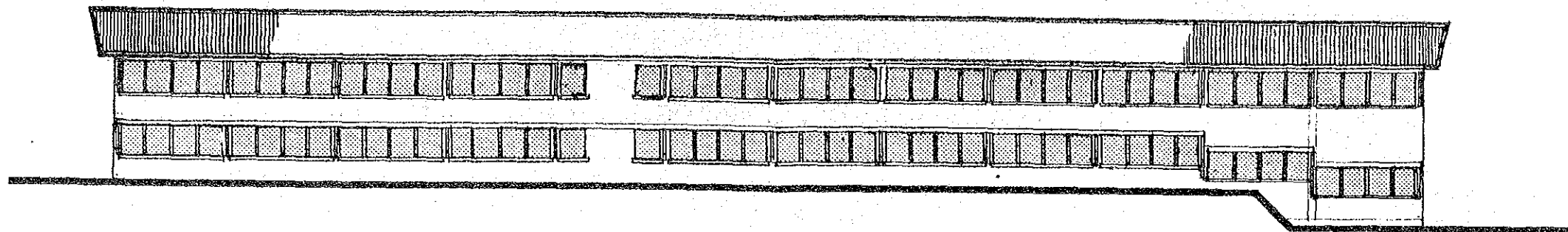
SCHOOL

FIRST FLOOR PLAN  
SCALE 1 : 500

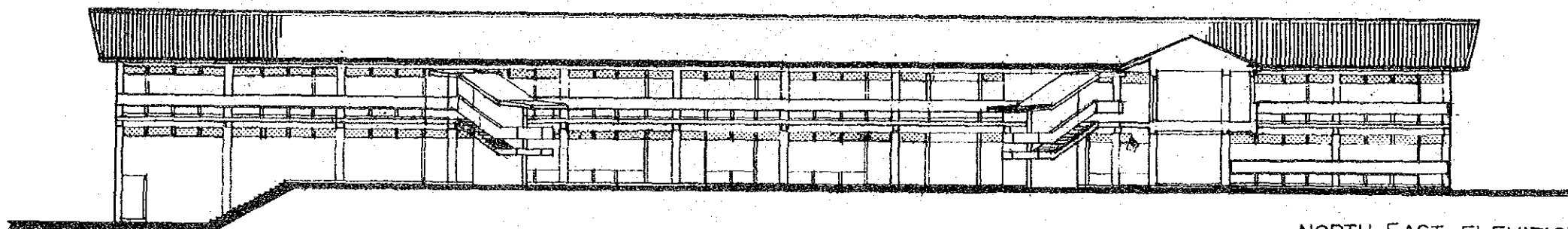
THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING



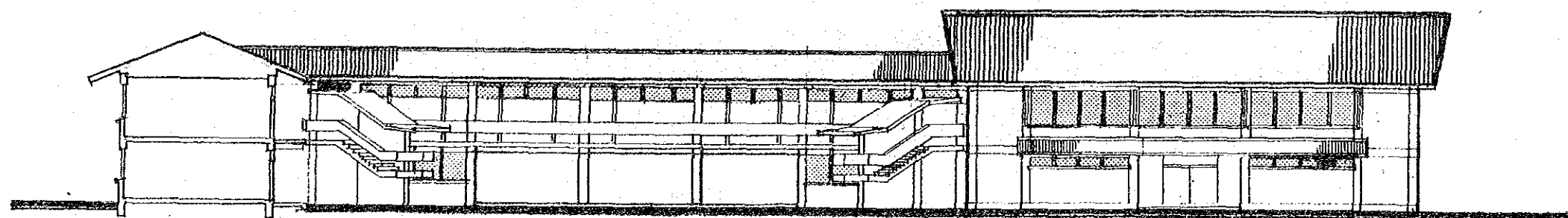
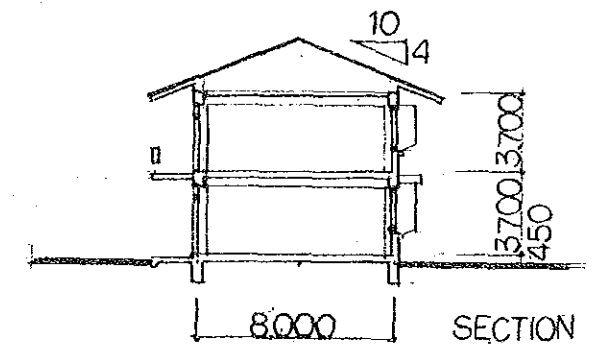
NORTH-WEST ELEVATION



SOUTH-WEST ELEVATION



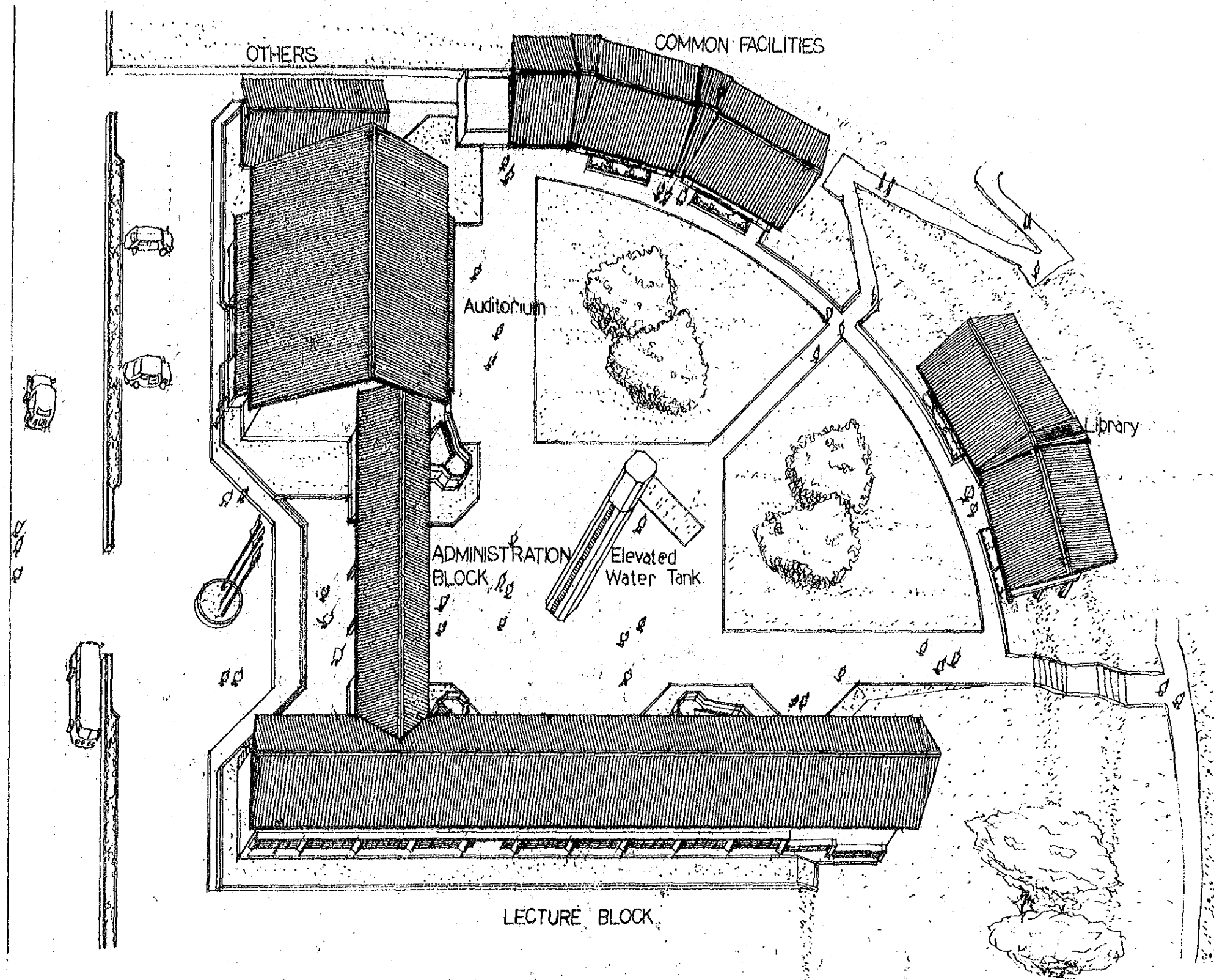
NORTH-EAST ELEVATION



SOUTH-EAST ELEVATION

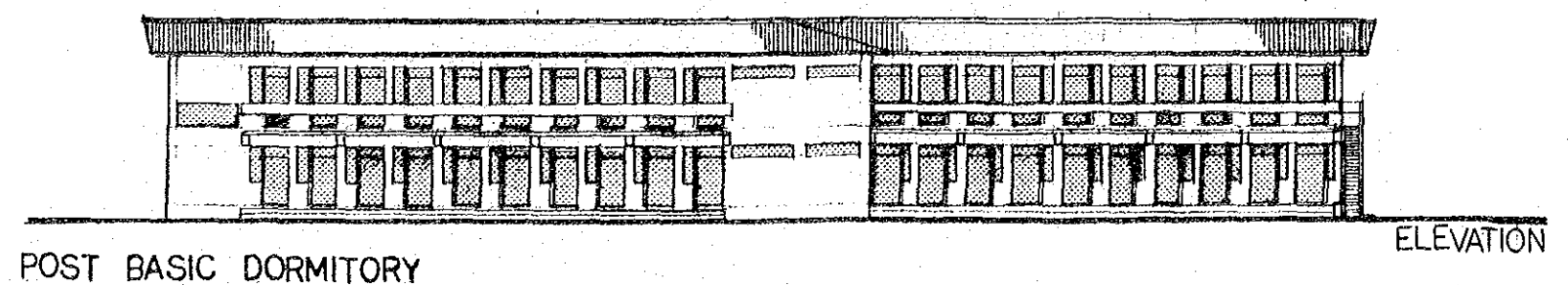
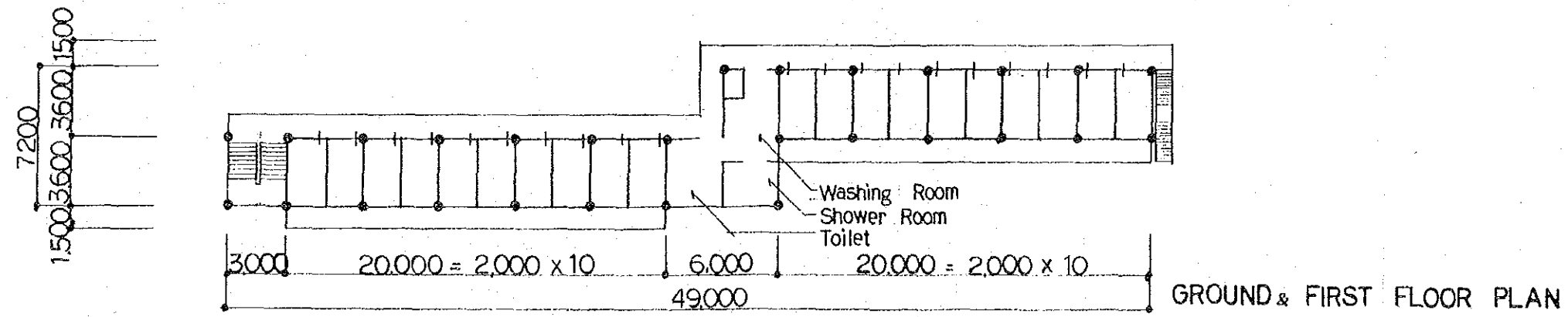
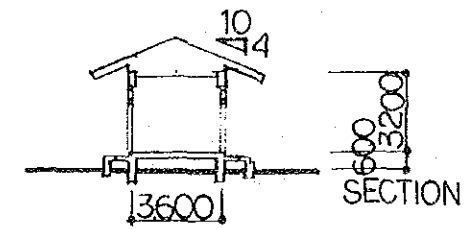
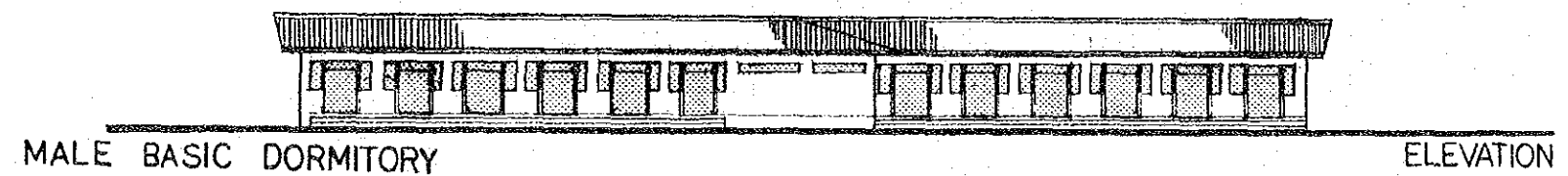
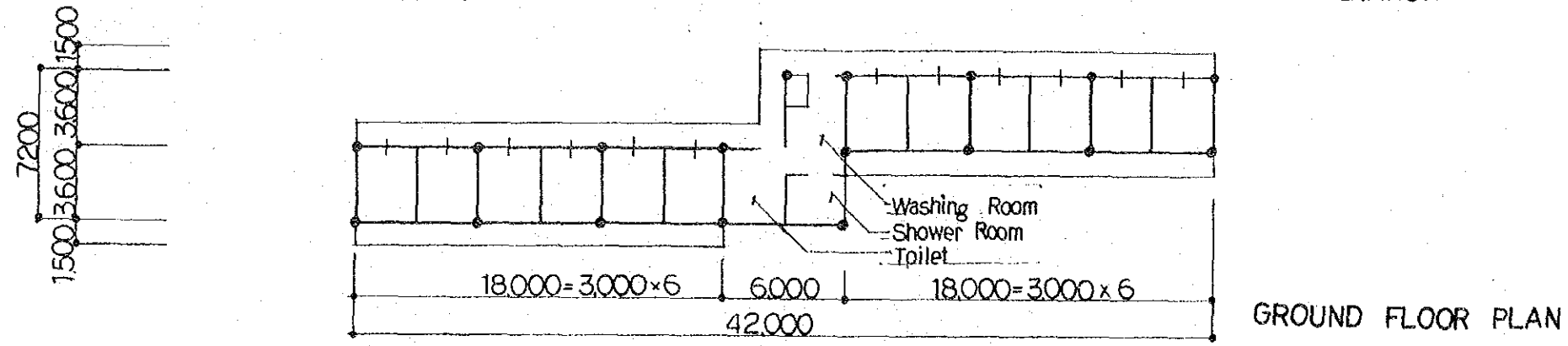
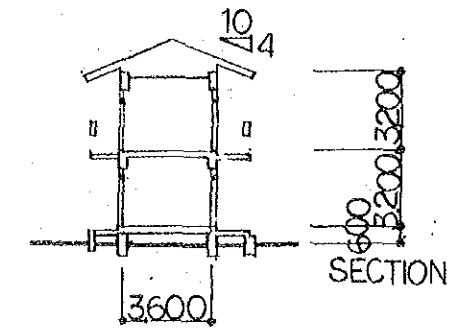
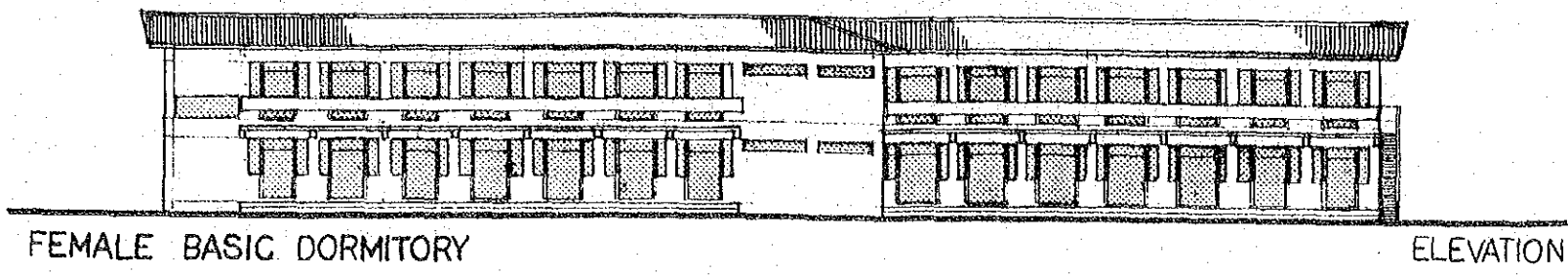
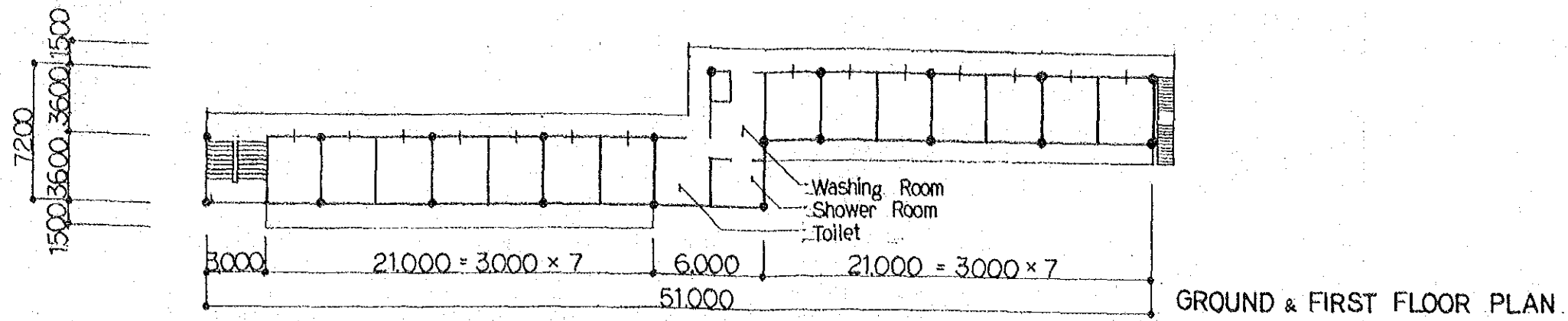
SCHOOL  
ELEVATIONS & SECTION  
SCALE 1:300

THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING



SCHOOL  
ISOMETRIC DRAWING

THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING



DORMITORY  
PLANS,  
ELEVATIONS &  
SECTIONS  
SCALE 1:300





## 4-4 教育機材計画

### 4-4-1 基本方針

教育機材の計画に際し、下記の基本的原則を充分考慮する。

- (1) フィジールの既存看護学校の現状を調査した結果、教育器具・機材の種類は少なく、古いものが多く見受けられた。教育器具・機材の選定にあたり、フィジールの医療および医療従事者養成の事情を踏まえ、日本の看護婦養成所指定規則の機器設置基準より教育機材を選定する。
- (2) 本学校の主目的である看護婦の質・量改善の要請にこたえ、国際的に通用する良質の機器を設置するものとする。
- (3) 本学校完成引き渡し後、教育機材の維持・修理はフィジール国保健省の責任のもとに行なわれるのを前提とする。
- (4) 本学校から実習病院であるCWM病院まで約6kmの距離があり、専用の通学バスを考慮する。

### 4-4-2 教育機材リスト

教育機材はフィジール側と使用目的、使用場所、仕様、数量等について討議し選定した。

教育機材を大別すると次のようになる。

- (1) 一般教育機材
- (2) 基礎看護教育機材
- (3) 産科教育機材
- (4) 小児保健教育機材
- (5) 公衆衛生教育機材
- (6) 老人病教育機材
- (7) その他の機材

表 4 - 1 4 教育機材リスト

(1) 一般教育機材			
項 目	数量	項 目	数量
1) 複写機	1	12) 教師用実験台	1
2) 謄写原紙製版機	1	13) 学生用調理台	8
3) 回転式印刷機	1	14) 教師用調理台	1
4) オーバーヘッドプロジェクター	7	15) 学生用調理台	8
5) 電子卓上計算機	3	16) 流し付壁付実験台 - I	1
6) 映写機 ( 16 mm )	2	17) 流し付壁付実験台 - II	1
7) 撮影機 ( 16 mm )	2	18) 流し付壁付実験台 - III	1
8) タイプライター	1	19) 黒板 - I	10
9) 移動式スクリーン	1	20) 黒板 - II	5
10) TV & VIDEO システム ( 受像機、カメラ、デッキ )	1	21) スクリーン付黒板	3
11) キャビネット	1	22) 掲示板	16

(2)~(6) 専門教育機材

( 各機器の○印は、各教育項目に該当する。 )

機 器	項 目	数 量	(2) 基礎	(3)	(4) 小児	(5) 公衆	(6) 老人病
			看護教育	産科教育	保健教育	衛生教育	教 育
1) 人体解剖図譜		1	○				
2) 人体解剖スライド		1	○				
3) 人体生理解剖掛図		1	○				
4) 循環器系模型		1	○				
5) 消化器系模型		1	○				
6) 肺区域模型		1	○				
7) 脳模型		1	○				
8) 脳解剖模型		1	○				
9) 皮膚構造模型		1	○				
10) 眼球模型		1	○				
11) 耳模型		1	○				
12) 歯の構造模型		1	○				
13) 鼻腔解剖模型		1	○				
14) 喉頭模型		1	○				

機 器	項 目	数 量	(2) 基礎 看護教育	(3) 産科教育	(4) 小児 保健教育	(5) 公衆 衛生教育	(6) 老人病 教 育
15) 胃模型		1	○				
16) じん臓構造模型		1	○				
17) 腸模型		1	○				
18) 子宮模型		1	○	○			
19) 婦人骨盤模型		1	○	○			
20) 妊娠子宮模型		1	○	○			
21) 悪露模型		1	○	○			
22) 小児便模型		1	○	○	○	○	
23) 受胎調節指導模型		1	○	○		○	
24) 受胎原理模型		1	○	○		○	
25) 胎児発育模型		1	○	○		○	
26) 受胎調節指導掛図		1	○	○		○	
27) 母親学級用掛図		1	○	○		○	
28) アトム妊娠歴		1		○			
29) 法定伝染病模型		1	○				
30) 人体寄生虫標本類		1	○				
31) 病理組織標本類		1	○				
32) 治療食標本模型		1	○			○	
33) 離乳食献立模型		1	○	○			
34) 静注腕模型		1	○				
35) ギャッドベッド マットレス, サイドテーブル, 枕, 毛布, 椅子含		1	○				
36) オーバーベッドテーブル		6	○				
37) ベッド(大人用)(含、マットレス)		5	○				
38) ベッド(小児用)(含、マットレス)		1	○				
39) ベッド(新生児用)(含、マットレス)		2	○				
40) 万能実習用モデル人形		1	○	○	○	○	○
41) 実習用人形(各種)		6種	○	○	○	○	○
42) 沐浴人形(ベビー)		3	○	○			
43) 分娩用モデル人形		1	○	○			
44) 乳幼児心肺蘇生訓練用人形		1	○	○	○		

機 器	項 目	数 量	(2) 基礎 看護教育	(3) 産科教育	(4) 小児 保健教育	(5) 公衆 衛生教育	(6) 老人病 教 育
45)	ベビー沐浴槽	3	○				
46)	身長計 大人用	1	○				
47)	身長計 小人用	1	○				
48)	体重計 大人用	1	○				
49)	体重計 乳児用	1	○				
50)	清拭車	1	○				○
51)	洗髪車	1	○				○
52)	離被架	10	○				○
53)	車椅子(折たたみ)	6	○			○	○
54)	# (普通)	2	○			○	○
55)	ストレッチャー	2	○			○	
56)	松葉杖	6	○			○	
57)	歩行器	2	○			○	○
58)	ワゴンテーブル	1	○				
59)	処置台	1	○				
60)	診療台	1	○				
61)	白板、フランドルボード(移動式)	1	○				
62)	スクリーン(2枚パネル)	2	○				
63)	保育器 (運搬用酸素ボンベ調圧バルブ付)	1	○				
64)	包帯巻機	1	○				
65)	ガーゼカッター	1	○				
66)	包帯交換車	2	○				
67)	産科用ファントム(回転)	1	○	○		○	
68)	# (卓上)	2	○	○		○	
69)	乳房マッサージ練習模型	2	○	○		○	
70)	肺活量計	1	○			○	○
71)	血圧計;水銀	6	○			○	○
72)	# ;アネロイド	6	○			○	○
73)	骨盤計(マーチン)	2	○	○		○	
74)	聴診器	6	○			○	
75)	樋口式産科聴診器	2	○	○		○	

機 器 \ 項 目	数 量	(2) 基礎 看護教育	(3) 産科教育	(4) 小児 保健教育	(5) 公衆 衛生教育	(6) 老人病 教 育
76) さく乳器	5	○	○		○	
77) 酸素流量計	1	○				
78) 酸素濃度計	1	○				
79) 酸素テント	1	○				
80) 酸素マスク(フェース)	1	○	○	○	○	
81) 酸素マスク(子供用)	1	○		○	○	
82) 心電計(ポータブル)	1	○			○	○
83) PHメーター	1	○				
84) 化学実験器具セット	5	○				
85) 試験管洗滌器	1	○				
86) 血液検査器具セット	1	○				
87) 顕微鏡	5	○				
88) 乾熱滅菌器	1	○				
89) 煮沸消毒器	1	○				
90) 遠心分離器		○				
91) 体温計 腋窩用 各2 肛門用 口腔用	各2	○	○	○	○	
92) 電子体温計	1	○				
93) 額帯鏡	2	○				
94) 舌圧子	20	○				
95) 分娩セット(アトム)	1	○	○			
96) 受胎調節指導セット	1	○	○		○	
97) 看護技術映写スライド	1	○				
98) スライドプロジェクター	1	○				
99) VTR 身体のしくみシリーズ	1式	○				
100) VTR 病気シリーズ 病気の原因 人体の構造と働き 性病 精神病 代謝疾患	1	○			○	
101) VTR 救急処置	1	○		○	○	
102) VTR 無菌的処置	1	○				

機 器	項 目	数 量	(2) 基礎 看護教育	(3) 産科教育	(4) 小児 保健教育	(5) 公衆 衛生教育	(6) 老人病 教 育
103)	VTR 看護技術シリーズ 片マヒの看護 縫法 穿刺 注射 保育器の扱い方	1	○				
104)	16mm看護技術 教師用ガイドブック	1	○				
105)	浣腸セット	1	○	○	○	○	
106)	静注トレー	1	○				
107)	注射トレー	6	○				
108)	与薬トレー	6	○				
109)	胃洗滌用具	6	○		○	○	
110)	気管切開用具	1	○				
111)	輸血セット	1	○				
112)	吸引器(スタンド付)	1	○	○			○
113)	イリゲーター(洗浄)	6	○	○			○
114)	イリゲーター用スタンド	6	○				
115)	ビッチャー	15	○				○
116)	手洗用ブラシ	10	○				
117)	便器 大人用	10	○				○
118)	尿器 大人用(男女)	10	○				○
119)	便尿器架	1	○				
120)	洗濯機	1	○				
121)	冷蔵庫	1	○				
122)	インキュベーター(恒温器)	1	○				
123)	ドラフトチャンバー	1	○				
124)	ステリライザー	1	○				
125)	鉗子類	10	○				
126)	剪力類	10	○				
127)	シャーカステン	1	○				

(7) その他の機材	
項 目	数 量
1) 実習病院通学用バス 定員 60名(補助席含む)	1台



## 4-5 事業実施計画

### 4-5-1 実施体制

本プロジェクトの実施に係わるフィジー側の所轄官庁は、フィジー国保健省看護局である。コンサルタント契約、工事契約等の事務手続きや、学校計画に係ることについては保健省看護局、建設に係ることについては通信・土木省公共事業局がそれぞれ担当する。

この他本プロジェクトは外国援助案件であることから大蔵省授助局と外務省が業務を推進する。

以下に本プロジェクトの実施体制を図示する。

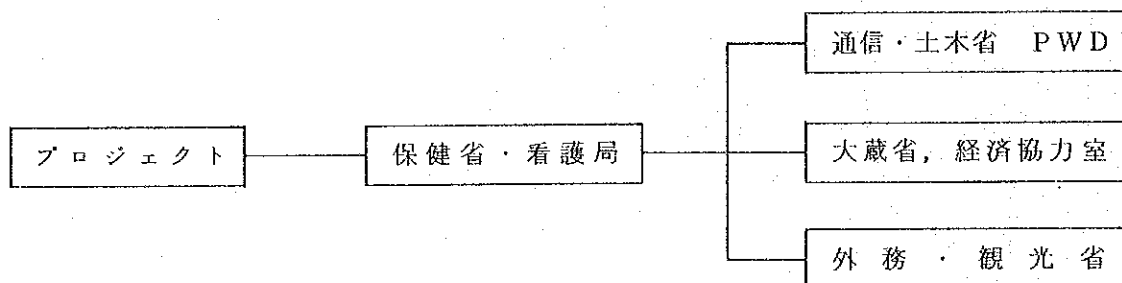


図4-17 実施体制

### 4-5-2 実施スケジュール

プロジェクト実施に係わる工程は、(1) 技術協力による基本設計調査と、(2) 実施設計、建設工事および監理業務に分けられる。

本プロジェクトは、延床面積約7000㎡になる規模であるが、フィジーの建設事情を加味すると工事期間は約18ヶ月必要と判断する。

実施スケジュールを次に示す。(A案)

工事予算の都合で、2期に分割し、2年にわたって発注した場合の実施スケジュールをB案として検討した。

### 4-5-3 施工管理

#### (1) 工事着工までの過程

フィジー政府は日本、フィジー両国による交換公文締結後、日本の外国為替取扱銀行と支払授權契約を締結する。これと平行してコンサルタントと設計監理契約を交わし、入札の後コントラクターと工事契約を結び工事が着手される。

建設地はフィジー国保健省の所管で、所有権の問題はないが、起伏の多い傾斜地であり造成工事が必要となる。

又一部既存タムブア病院の病棟として使用されている建物があるので撤去工事を必要とする。フィジー政府はこれらの造成工事、撤去工事を工事着手前に完了させておかなければならない。

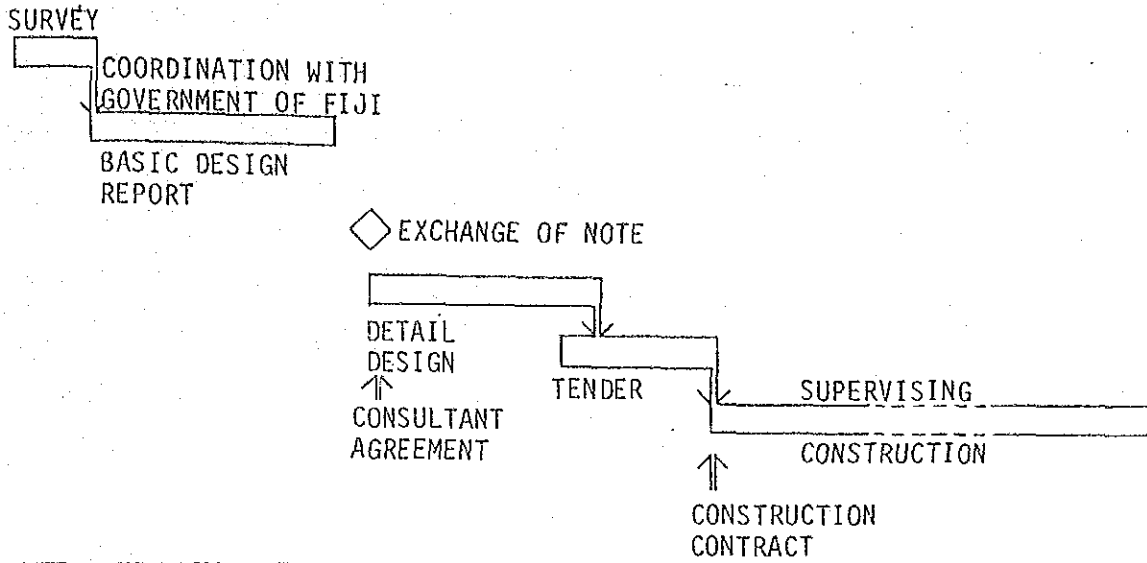
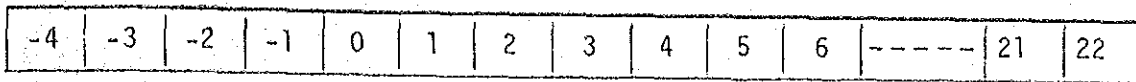


図4-18 実施スケジュール (A案)

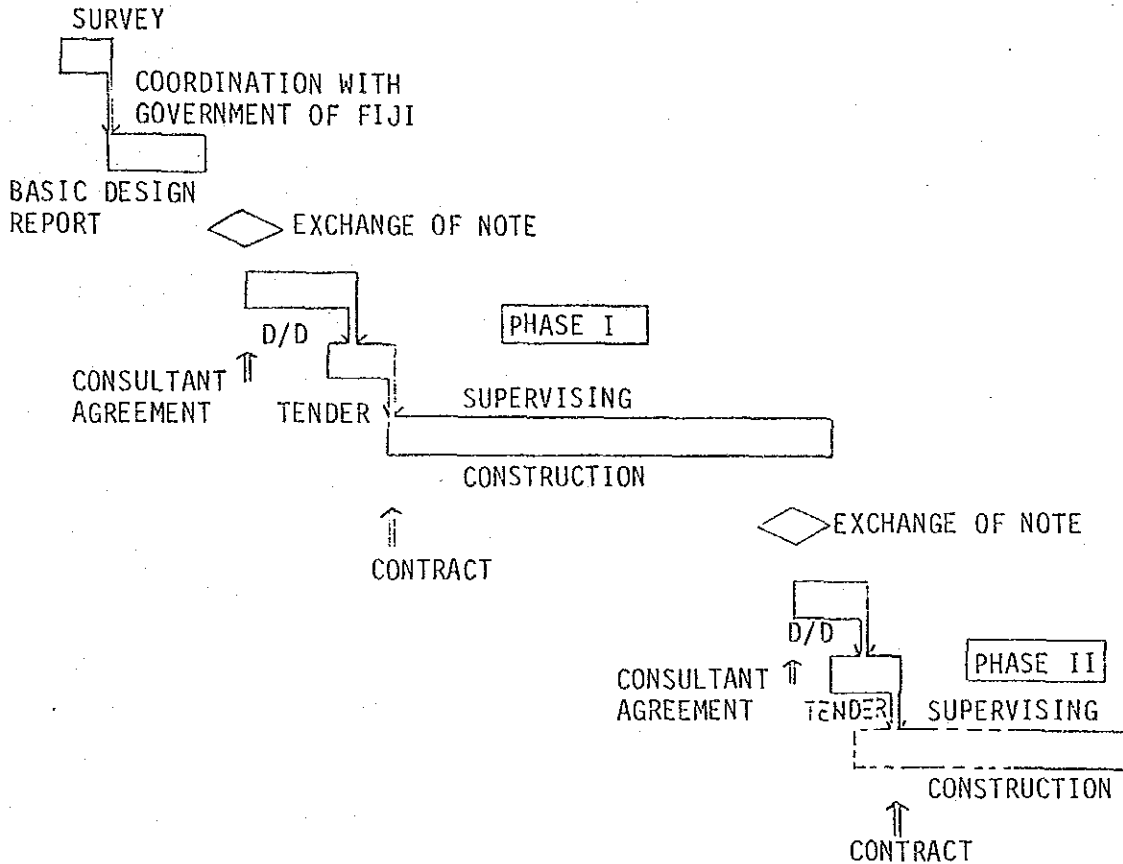
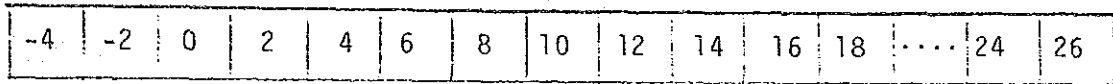


図4-19 実施スケジュール (B案)

## (2) 施工計画

工事工程の作成にあたっては、建設資機材の検討、第3国調達の可能性、通関業務手続き、搬入方法等を検討する必要がある。またスバは降雨量の多い場所であるので乾期・雨期の工事区分の考慮も必要である。すなわち乾期に基礎工事から躯体工事、屋根工事まで完了させ、雨期に建物内部の内装工事等となるよう工事工程を組むのが最も妥当である。しかしながら、日本とフィジーの予算年度およびE/Nの時期により、一部基礎工事が雨期に掛かるおそれがあるが、雨水排水やコンクリートの養生等十分対策をたてることとする。

電気、上水道、電話等の引き込み、下水道へのつなぎ等の工事も現地のそれぞれの担当部署と十分な打合せをしたうえで、適切な時期に工事を行なうこととする。

工事期間中は、工程面や技術面で現場の進捗に合わせそれぞれの担当者と十分な意見交換を行ない調整する事が必要であり、日本国内に十分な支援体制を取る事が重要である。

### 4-5-4 監理計画

コンサルタントはコンサルタント契約に従い、入札の後工事施工監理業務を遂行する。コンサルタントは、公正中立を守り、適切な判断と指導を行なう。

工事施工監理は次の業務からなる。

#### (1) 工事契約手続きの援助

フィジー政府を代行して入札・評価を行ないコントラクターの選定を行なう。さらに工事内訳明細書内容の審査を行なう。

#### (2) 支払い承認手続き

工事期間中に支払われる工事費の支払請求内容の検討と承認を行なう。

#### (3) 工事指導

現場で定期的な会議を持ち、工事進捗状況の確認、コントラクターの指導等を行なう。またフィジー関係機関へ定期的に必要事項の報告書を提出する。

#### (4) 施工図の検査と承認

コントラクターより提出される施工図、材料見本等の検査を行ない承認を与える。

#### (5) 現場検査

工事期間中の現場検査および完成時の竣工検査を行ない承認を与える。竣工検査後フィジー政府の完了証明書を受領し、業務は完了する。

日本国内においても、工事期間中日本調達資材の検査、輸出品検査等や日本政府関係機関に必要事項の定期的な報告を行う十分な支援体制をとることとする。

#### 4-5-5 建設資材の調達計画

主要な建設資材はニュージーランド、オーストラリアから輸入されている。本プロジェクト実施にあたって建設資材の調達はフィジー、日本及びニュージーランド、オーストラリアの第三国からと考えられる。

フィジーの労務者のレベルは他の発展途上国に比べて比較的高いが、必要に応じてスーパーバイザーを派遣して技術指導を行うことが必要である。

次に現在予想される建設資材の調達先をあげる。

##### (1) フィジーで調達を予想されるもの

###### 1) 建築基幹材

セメント、砂、砂利、生コンクリート、コンクリートブロック

###### 2) 建具

木製建具、一部の金属製建具、ガラス

###### 3) 木工事

木材一般

###### 4) 家具

木製家具

###### 5) その他

仮設用資機材

##### (2) 日本又は第三国から調達を予想されるもの

###### 1) 建築基幹材

鉄筋、鉄骨、屋根材

###### 2) 設備基幹材

PVCパイプ（電路、上下水用）、金属電線管、ケーブル、機械設備器具、照明器具、盤類等

###### 3) 建具

鋼製建具

###### 4) 内装材

床材、タイル、その他

#### 4-5-6 工事分担範囲

両国政府の工事分担範囲は下記の通りである。

分担範囲と責任を次に述べる。

##### (1) 日本側の分担工事範囲

###### 1) コンサルタント業務

実施設計及施工監理

###### 2) 学校施設の建設と教育機材の供与

- ・校舎と宿舍の建設 (4-3 施設計画参照)
- ・教育器材の供与 (4-4 教育器材計画参照)

##### (2) フィジー側の分担工事範囲

###### 1) 施設建設用地の整備(既存建家の撤去、樹木の一部撤去、造成等)

###### 2) 仮設電力、給水の確保

###### 3) 地耐力試験

###### 4) 建設実行に必要な諸情報の提供

###### 5) 施設関係 ガードハウス

###### 6) 外構関係

敷地外排水工事

外柵、植栽工事

防火用水兼用地

敷地外取付道路

###### 7) 基幹工事

給水(市水引込配管)

排水(敷地外の所定位置迄の排水管路)

電力(敷地外より所定位置迄の引込み)

電話(MDF迄の局線引込み)

###### 8) 家具及び備品

事務用家具及び備品

寝具

厨房用什器備品(ナベ、食器等)

###### 9) 建設資材料の関税、通関

10) 日本人工事関係者に対するフィジー国で課せられる関税、国内税その他の課徴金の免除

11) 本工事に関係する日本人技術者の出入国に対するフィジー国からの便宜供与

## 第5章 維持管理計画

- 5-1 運営および維持管理計画
  - 5-1-1 運営計画
  - 5-1-2 維持管理計画
- 5-2 維持管理費の算定



## 第5章 維持管理計画

本看護学校の運用を円滑に行うためには、運営主体である保健省の適切な予算措置と運営・維持体制が必要である。

### 5-1 運営および維持管理計画

#### 5-1-1 運営計画

現在のフィジー看護学校は、保健省看護局の看護教育部に属し、校長以下教職員が配置され教育・運営がなされている。

本計画の新看護学校が設立された後も同様の機構により運営される。

運営・維持管理はそれぞれ教育部門、一般管理部門、建設施設管理部門によって実施される。

教育および一般管理は、看護局指導の総合カリキュラム、学校規程、各種法令の運用により看護学校にて実施されるが、建物施設管理においては通信土木省公共事業局の協力を受けて実施される。

#### 5-1-2 維持管理計画

建物、施設の維持管理の目的は以下の点にある。

- (1) 機能の維持（教育能率、稼働率、居住性）
- (2) 経済的損失の未然防止（修繕費用を低減する）
- (3) 災害防止と非常時の措置
- (4) 財産価値の維持

建物施設の適切な維持管理と正しい使用は、自然劣化による建物施設の性能低下を防ぎ耐用年限を長く保持することが出来る。省エネルギーを目標とした簡便なメンテナンス技術にて管理できる建物施設が計画されている。

建設段階では竣工前よりフィジー国担当者に対し維持管理教育、運転取扱い教育をすることが必要である。

竣工後は部門担当者を選任し公共事業局の担当者を加え、保守計画表等を作成し、その実行をはかる。日常管理・定期管理の各項についてチェック→検討→修理実施のサイクルを繰り返す、施設の良好な維持に努める。維持管理の関係網は次図の様になる。



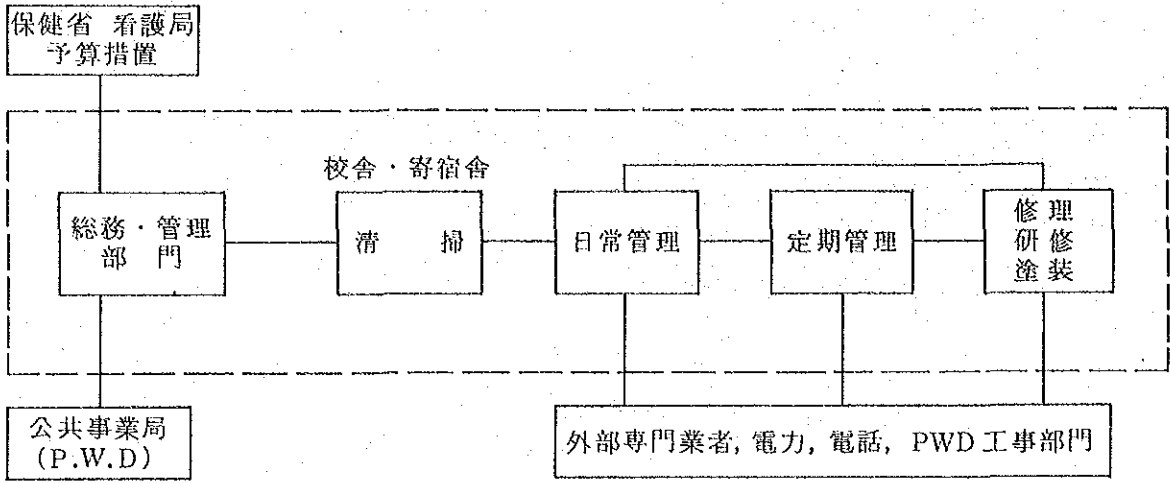


図 5 - 1 維持管理関係図

## 5-2 維持管理費の算定

維持管理費の主なものは、人件費と運営費・光熱費である。保健省資料および現地調査資料より、本看護学校の年間維持費を算定すると次のようになる。

表5-1 維持管理費の算定 (1986年推定, F\$)

維持管理費合計	F\$	1,128,632
人件費	F\$	707,982
運営費	F\$	358,090
光熱費	F\$	62,560

人件費、運営費、光熱費の内訳は次のとおりである。

表5-2 維持管理費の内訳 (1986年推定, F\$)

維持管理費	項目	金額	合計
人件費	職員給与	303,502	707,982
	学生給付金	399,480	
運営費	教材費	16,034	358,090
	事務費	27,587	
	修繕費	3,249	
	食費	306,000	
	その他雑費	5,040	
光熱費	電気代	38,699	62,560
	水道代	9,901	
	ガソリン代	13,960	
合計			1,128,632

維持費算定は、次の設定条件のもとに行った。

1. 人件費は保健省から受領した給与基準による。
2. 年間賃金上昇率を5%とする。
3. 年間物価上昇率を6.3%とする。
4. 教職員および学生数は、第三章の計画による。
5. 1986年度に開校すると仮定し、同年度の費用を算定する。

フィジー看護学校の運営費は、表5-3の通り施行されており、1985~6年は保健省による予測であるが、いずれも600,000F\$程度である。これに対し、新看護学校の維持管理費は、88%増加することになるが、これは1982年度の保健省予算総額からみると、わずか1.9%であり、保健省事務次官は、十分な予算確得の用意があるとその意志を表明している。

表5-3 現状の場合の予算推移

×1000F\$

	1982 決算	1983 予算	1984 予算	1985 予測	1986 予測
1. 常時職員	429.3	508.4	410.9	427.3	444.4
2. 臨時職員	109.9	127.4	117.4	117.4	117.4
3. 旅費,通信費	1.9	3.5	3.5	3.5	3.5
4. 保守,維持	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5
5. 用品,雑費	73.6	57.5	57.5	57.5	57.5
計	614.8	697.3	589.8	606.2	623.3

## 第6章 事業費の概算



## 第6章 事業費の概算

事業費は、本基本設計に基づき、建物建設費、機材費、予備費および設計・監理費の4項目について算出された。

工事が一括発注される場合と、二期分け発注される場合の2例について、事業費を検討した。

### (1) 積算条件

- 1) 算出時期：1984年2月現在
- 2) 建設工事の発注方式：建設施工を主に行なう日本の法人へ一括発注する。
- 3) 建設工事期間：

単年度で一括して行う場合	第1期	1984年10月より18ヶ月
2年度で分けて行う場合	第1期	1984年10月より18ヶ月
	第2期	1985年10月より12ヶ月
- 4) 計算に用いた外貨交換レート：240円=US\$1.0=F\$1.0
- 5) その他：建設工事にかかわる資材および建設機材へのフィジーにおける輸入関税の免除。  
建設にかかわる日本の法人・個人へのフィジーにおける各種税の免除。

### (2) 積算に用いられた資料

日本ポーション：1984年2月の刊行物および積算資料。

フィジーポーション：1983年11月に行なわれた現地調査時の収集資料。

### (3) 建設時においてフィジー国が負担する工事費。

フィジー国がE/Nに基づいて負担すべき工事費は、次のものである。

- 1) 敷地造成工事費
- 2) 外構工事費
- 3) エネルギー引込み工事費
- 4) 教育機材以外の家具什器備品工事費

### 概算工事費

基本設計に基づく一括発注時の概算事業費は、次の通りである。

表6-1 概算工事費 (一括発注)

工 事 費	建 物 建 設 費	1,456,000,000 円
	機 材 費	87,000,000 円
	予 備 費	116,000,000 円
設 計 監 理 費		148,000,000 円
事 業 費 合 計		1,807,000,000 円

二期分け発注の場合の概算事業費は、次の通りである。

表6-2 概算工事費 (二期分け)

		第一期工事費	第二期工事費
工 事 費	建 物 建 設 費	665,000,000 円	838,000,000 円
	機 材 費	87,000,000 円	—
	予 備 費	80,000,000 円	101,000,000 円
設 計 監 理 費		113,000,000 円	74,000,000 円
事 業 費 合 計		945,000,000 円	1,013,000,000 円

建設時にフィジー国の負担すべき工事費は、次の通りである。

表6-3 フィジー国の負担すべき工事費

敷地造成工事費	31,900,000 円
外構工事費	69,300,000 円
エネルギー引込み工事費	4,000,000 円
家具什器備品工事費	24,800,000 円
工事費合計	130,000,000 円

## 第7章 事業評価





## 第7章 事業評価

フィジー国は1970年イギリスより独立して以来、W.H.Oの指導およびニュージーランド、オーストラリアなどの諸国の協力のもとに医療保健関係の人材養成を行ってきた。

看護に関する人材もそれぞれ必要に応じ、病院やヘルス・センター、ナース・ステーション等に配属すべく養成を行っているが、人材の質と量の不足に悩まされている。特に地域病院における看護婦の不足と僻地におけるナース・ステーションの看護婦の不足が目立っており、1983年現在、不足看護婦数は、フィジー看護婦・助産婦委員会より、625名と報告されている。

また、同国の推進している第8次開発計画にもとづいた人材養成計画においても、医療保健関係、特に中心となる地域病院の看護婦と辺地のプライマリーヘルスクエアを荷う看護婦不足の解決を最優先施策として掲げている。

一方同国は、自国に看護学校をもたない南太平洋諸国の看護婦教育を引き受けており、これら諸国は看護教育において、フィジーの看護学校がはたす役割に大きな期待を寄せている。

しかしながら同国には、看護学校としての満足な施設、機材の用意がなく、管理棟と宿舎は耐用年限を過ぎた木造であり、校舎は約6Km離れた文部省の教員養成学校の一部を借用しており、不足している看護婦の増員はおろか、質的にも満足できない現状にある。

ここに新しい看護学校を建設し、教育機材を充実させることにより、看護婦教育の充実をはかる本プロジェクトの必要性が認められる。

看護婦不足を緩和するため、本プロジェクトの基礎看護学コースの学生定員の設定について検討した結果を下記に示す。

(1) 2000年までの人口増加予測と、1986年から120名定員の学生が卒業して実務につくと予測した時の看護婦供給数から、看護婦1人あたりの人口を計算し、日本の過去の実績と比較した。結果は図7-1の通り、2000年において日本の1940年のレベルに達することができる。

(2) 1983年フィジー看護婦・助産婦委員会が報告したフィジー全国における看護婦不足数625名を充足するため、増員された定員120名の学生が卒業する1988年の看護婦供給数を推量し、何年要するかを計算した。なお計算にあたり、南太平洋諸国の派遣学生のための3学年計15名の枠は除外してある。

看護婦供給数を推定するにあたり、長期休暇他で職務を離れている看護婦数を、保健省看護局の調査結果にしたがって6.0%としたが、別の報告によると15.6%という数字もある。又極く短期的調査では20.0%という報告もある。

結果は表7-1の通り8.0年となったが、長期休暇で離職中の看護婦数を最小値としたこと

又、看護婦の需要は増加する傾向にあることなどにより、この結果は最良条件時のものと考えられる。

したがって(1)の結果と合わせ、この学生定員の設定は妥当性が認められる。

この学生定員に基づき、さらに教育内容および授業・実習方法等を検討して本プロジェクトの施設計画と教育機材計画は立案されている。同時に維持・管理および運営についても検討が加えられ、施設・機材計画に反映されており、フィジー国の本プロジェクトに対する実施運営体制から十二分に活用される計画であると判断される。

表7-1 看護婦不足数見積と供給数見積

1. 看護婦不足数見積		
1) 主要三病院	300	625
2) その他の病院	175	
3) ナースステーション	150	
2. 看護婦供給数見積		
1) 新卒(外国人と落伍者除く)	100	82
2) 移住	8	
3) 退職	-20	
4) 長期休暇他	-6	
∴ 充足するため必要な年数 625人 ÷ 82人/年 = 7.6年 → 8年		

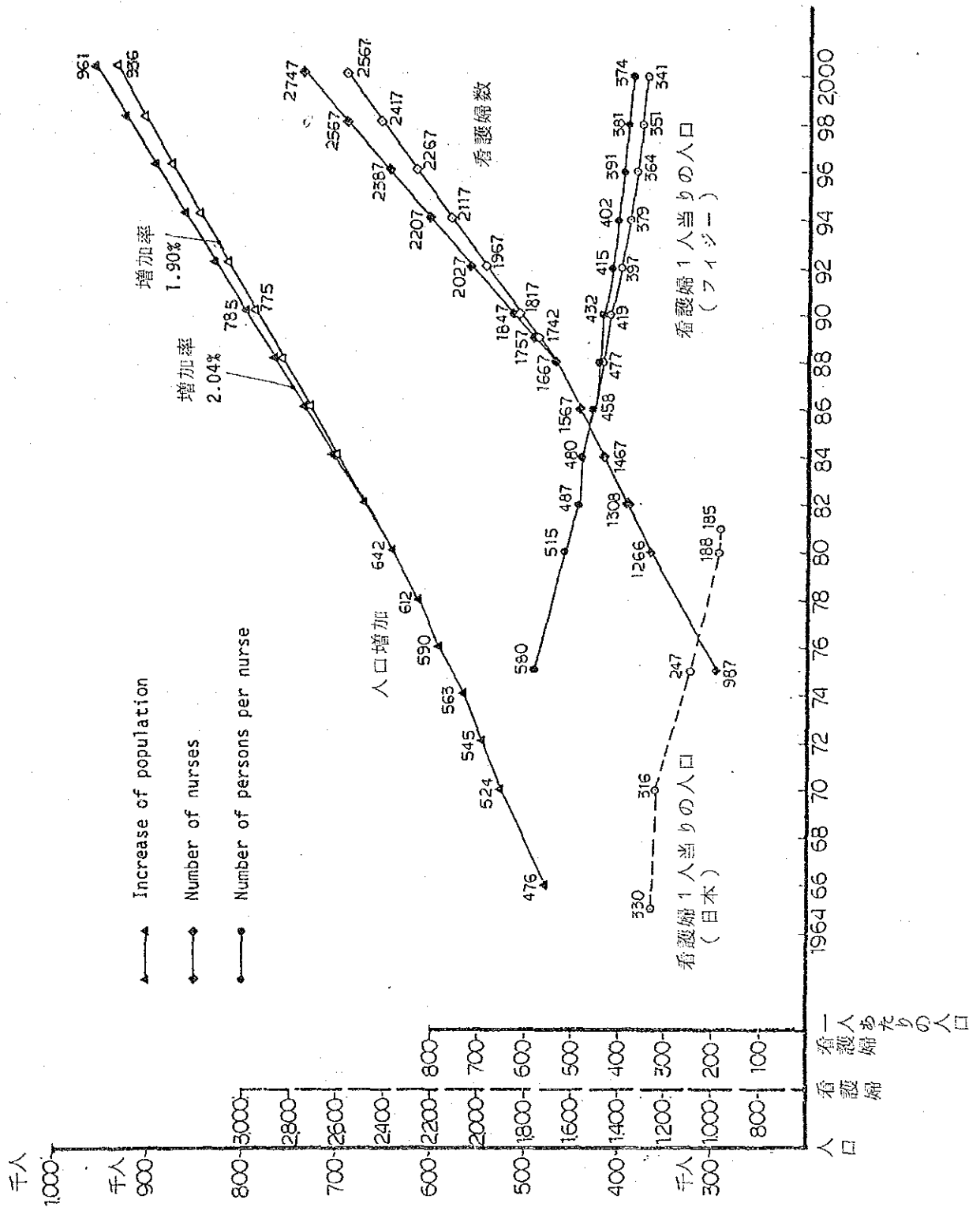


図7-1 看護婦数の推定



## 第 8 章 結論・提言

8-1 結 論

8-2 提 言



## 第 8 章 結論と提言

### 8-1 結 論

DP-8の四つの目標（1.福祉の増進 2.保健サービスの質の向上 3.保健サービスの公平な地方への分配 4.保健サービス施設の建設）を達成するため、フィジー国保健省は五つの計画を立案し、実行に務めている。その五つの計画のひとつとして本プロジェクトが計画された。

本プロジェクトは地域の中心となる病院の中堅看護婦と、プライマリーヘルスケアの最前線を守る看護婦の不足解消を緊急の目標とし、適切な専門知識と能力をもった看護婦を養成するため、看護学校施設の拡大と機能の増大を計るものである。

基礎看護学コース360名（1学年120名）、卒後コース40名（保健婦16名、助産婦24名）、合計400名の学生を同時に収容する。本プロジェクトが日本政府の無償資金協力により実現された場合、保健医療サービスの主要な荷手である看護婦の質と量、両面においてこれを高めることができ、フィジー国の国民保健医療サービスの改善と拡充に大きな貢献をすることが期待できる。

又同時に、基礎看護学校コースを持たない南太平洋諸国の看護学生も従来どおり受け入れ、卒後教育コースを充実させて、卒後教育施設を持たないすべての南太平洋諸国の必要性に応えることができる。

本看護学校は前章に述べた通り、その必要性は高く、又規模・施設内容・運営等において妥当であると判断されるものである。

よって、本プロジェクトの日本国政府による無償資金協力の早急な実施をここに提案するものである。



## 8-2 提 言

本プロジェクトの実施が、より円滑かつ効果的に進められるためには、フィジー国保健省は、建設段階の諸準備と開校後の運営において、次の事項に関し、予算措置も含め、適切かつ十分な手段を講ずることが必要と考えられる。

- (1) 無償資金協力の実施に必要なフィジー側負担事項（Exchange of Notesの記載事項）の完全な履行。
- (2) 開校後の管理運営に必要な予算措置と適切な教職員の配置。
- (3) 新カリキュラムによる教育レベル向上に対応し得るよう教員再教育の実施。（今回計画施設の利用による教員再教育コースの開講など）

又、本計画の実施による看護教員の質量両面における改善と合わせ本計画施設を利用して（夜間等）新しいタイプの看護従事者（A new category of Nursing Personnel）の短期養成コースを開設するのは、フィジー国の看護婦不足の早期解消の一助にもなることから、施設の効率的利用計画を策定し、上記コースの新設についても保健省として慎重に検討する必要があると考えられる。

# 付属資料

## 1. フィジー国関係者リスト

## 2. 基本設計調査

- (1) 基本設計調査団の構成
- (2) 基本設計調査団の日程
- (3) ミニッツ

## 3. 基本設計確認調査

- (1) 基本設計確認調査団の構成
- (2) 基本設計確認調査団の日程
- (3) ミニッツ

## 4. 資 料

- (1) 医療関係資料
- (2) WHOと南太平洋諸国



1. フィジー国関係者リスト

(1) MINISTRY OF HEALTH

Dr. A. KURISAQILA	Minister
Dr. T. M. BUIMAIWAI	Permanent Secretary
Miss Monica SCHNEIDER	Director, Nursing Services
Miss Trudy McIVER	Principal, Fiji School of Nursing
Mrs. Alisi DOBUI	Special Project Officer, Nursing Services
Mrs. Kalesi BAKANI	Special Project Officer, Nursing Services
Mr. Ted WILSON	Principal Accountant

(2) C.W.M. HOSPITAL

Dr. K. LAL	Medical Superintendent & Director
Miss C. K. Mani RAM	Senior Matron
Mrs. Viniana L. TUISOWAGA	Matron Administration

(3) TAMAVUA HOSPITAL

Dr. Inoke BUADROMO	Medical Superintendent
--------------------	------------------------

(4) LAUTOKA HOSPITAL

Mrs. Halima DEAN	Acting Senior Matron
Mrs. Mata ILOILO	Matron

(5) AID UNIT, MINISTRY OF FINANCE

Mr. Atendra SINGH	Senior Assistant Secretary
Mrs. MAWI	Acting Assistant Secretary

(6) MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS AND TOURISM

Mr. Jiogi KOTOBALAVU	Permanent Secretary
Major J. B. TAKALA	Permanent Secretary
Mr. Asim KHAN	Head, Trade, Aid & Regional Affairs

(7) P.W.D. (PUBLIC WORKS DEPARTMENT)

Mr. Bob CARROLL	Director, Architectural Division
Mr. Alesteir WARD	Architectural Division
Mr. Prahacad SINGH	Architectural Division
Mr. Alan HEPBURN	Principal Structural Engineer
Mr. Gul ZAMAN	Principal Quantity Surveyor
Mr. Peter TAYLOR	Principal Water Engineer

(8) FIJI ELECTRIC AUTHORITY

Mr. Veerendra AHIM	Principal Distribution Engineer
--------------------	---------------------------------

(9) W.H.O. (WORLD HEALTH ORGANIZATION)

Mr. Merlowe J. ANDERSON	Programme Management Officer
-------------------------	------------------------------

(10) NASINU TIMBER RESEARCH STATION, DEPARTMENT OF FORESTRY

Mr. A. S. ALSTON	Director
------------------	----------

(11) OTHERS

Mr. A. NABATI	Minister Without Portfolio at Prime Minister's Office
---------------	---

## 2. 基本設計調査

### (1) 基本設計調査団の構成

基本設計調査は、2班に分かれ、昭和58年11月12日より同月26日迄の15日間と、昭和58年11月12日より12月3日迄の22日間に渡り実施された。団員の構成は下記の通りである。

団長	永野 貞		財団法人 国際看護交流協会 理事
団員	山田 里津	看護教育	日本看護学校協議会副会長 三井記念病院高等看護学院 学院長
団員	木 邨 洗一	計画・管理	国際協力事業団 無償資金協力部
以上昭和58年11月12日～11月26日(15日間)			
団員	井上 慎一	建設計画	㈱梓設計 海外事業室部長
団員	小川 穂積	建築計画	㈱梓設計 海外事業室主任
団員	矢代 秀秋	資機材選定 電気・給排水・換気 空調設備	㈱梓設計 海外事業室主任
団員	河合 良夫	基礎データ収集	㈱梓設計 海外事業室主任
以上昭和58年11月12日～12月3日(22日間)			

### (2) 基本設計調査団の日程

昭和58年11月12日～12月3日(22日間)

永野団長、山田、木邨各団員は、11月12日～26日(15日間)

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	11月 12日	土	東京	
2	13	日	ナンディ→スバ	
3	14	月	スバ	・スバ市内、既存看護学校、南太平洋大学等見学 団内打合せ
4	15	火	"	・大蔵省(Aid Unit)、保健省、日本大使館表敬
5	16	水	"	・CWM病院、建設予定地-I、タムプア病院、 タムプア看護学校、建設予定地-II視察
6	17	木	"	・外務省表敬、保健省打合せ
7	18	金	スバ→ナンディ →ラウトカ	・ラウトカ病院、ラウトカ看護学校視察及打合せ
8	19	土	ラウトカ	・団内打合せ、資料整理

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
9	20日	日	ラウトカー→ ナンディ→スバ	・シガトカ病院視察
10	21	月	スバ	・保健省打合せ、ナシーヌ技術学校視察打合せ
11	22	火	〃	・保健省打合せ、サイト調査、PWD打合せ
12	23	水	〃	・保健省打合せ、TTC学校視察、大使館中間報告
13	24	木	〃	・保健省打合せ、ミニッツ署名交換
14	25	金	〃	・大使館報告、PWD打合せ（単価調査）
15	26	土	スバ→ナンディ →東京 スバ	・永野団長、山田、木邨両団員帰国 ・団内打合せ、資料収集
16	27	日	〃	・団内打合せ、資料検討、一般事情聴取
17	28	月	〃	・PWD打合せ、建設現場視察、インフラ打合せ
18	29	火	〃	・保健省、PWD打合せ、セメント工場視察 ・ナースステーション、ヘルスセンター視察
19	30	水	〃	・PWD打合せ、インフラ打合せ、建設現場視察 単価調査
20	12月 1日	木	〃	・気象庁打合せ、単価調査、WHO訪問
21	2	金	〃	・保健省報告、打合せ、医学校視察、PWD打合せ 日本大使館報告
22	3	土	スバ→ナンディ →東京	・コンサル団員帰国

MINUTES OF DISCUSSIONS

ON

THE PROJECT FOR THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING

In response to the request made by the Government of Fiji, the Government of Japan has sent, through the Japan International Co-operation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), a team headed by Ms. Sada NAGANO (Director, the International Nursing Foundation of Japan) to conduct a Basic Design Study on the project for New Fiji School of Nursing (hereinafter referred to as "the Project") from 12th to 25th November, 1983.

The team has conducted the field survey and held a series of discussions and exchanged views with the official concerned of the Government of Fiji.

Both parties have agreed to recommend their respective Government and authorities concerned to examine the results of the study attached herewith toward the realization of the Project.

24th November, 1983.

*Sada Nagano*

Ms. Sada NAGANO

Team Leader, Japanese Study Team  
JICA.

*T.M. Biunaiwai*

Dr. T.M. BIUMAIWAI

Permanent Secretary,  
Ministry of Health and Social  
Welfare.



ATTACHMENTS

The New Fiji School of Nursing is hereinafter referred to as "the School".

1. The Objective of the Project:

The Objective of the Project is to prepare competent and compassionate Nurse who will effectively promote and maintain optimal health and provide total Nursing Care in any work setting in response to the changing needs of Fiji.

2. The Executing and Co-ordinating Body of the Project:

The Executing and Co-ordinating Body of the Project is the Ministry of Health and Social Welfare, Fiji.

3. The Organization of the Project:

The Organization Chart of the Project is shown in Appendices I and II.

4. The Activities of the School:

(1) Total Number of Students	Basic	360		
	Post Basic	80	)	Midwifery 48
			)	Public
			)	Health 32
(2) Number of Students in each Class	Basic	120		
	Post Basic	48		
	Public Health	32.		

2/...

S.N.

*[Handwritten signature]*

- |                          |                      |                                  |
|--------------------------|----------------------|----------------------------------|
| (3) (i) Length of Course | General              | 3 years.                         |
|                          | Midwifery            | 6 months.                        |
|                          | Public Health        | 4 months.                        |
| (ii) Intake System       | Post Basic and Basic | 2 intakes<br>} a year<br>} each. |
- (4) Admission Criteria - Preferred University Entrance  
for Basic Students.  
Post Basic - Needs of Fiji.
- |                         |  |
|-------------------------|--|
| (5) Faculty - Full-time | 21 (Includes Principal,<br>Fiji School of Nursing).  |
| Part-time               | NIL. Except - study release for<br>outside lectures - minimal<br>(e.g. University of the South<br>Pacific, Suva.). |
- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| (6) Curriculum - Theory | : 1,242 hours. |
| Consolidated Practice   | : 2,000 hours. |
- |                        |     |  |
|------------------------|-----|--|
| (7) Trimester - Year I | - 4 | } 2 weeks holidays<br>} inclusive for<br>} Basic Students. |
| Year II                | - 4 |  |
| Year III               | - 4 |  |

5. The Proposed Site:

The proposed site for the School is located in Tamavua, Suva, shown in attached map. And the land belongs to Ministry of Health and Social Welfare. (See Appendix III).

6. The Required Facilities and Equipment for the School:

(1) Building:

(a) Administration Block -

Foyer

Reception

General Office

*S.N.*

*AS*

contd. page 3/...

Principal's Room

Deputy Principal's Room

Midwifery Tutor's Room

Public Health Tutor's Room

Tutors' Rooms

(b) Lecture Block -

Class Rooms

Large Lecture Room

Library

Auditorium

Seminar Rooms

Cooking Laboratory

Laboratory

Demonstration Room

Linen Store

Store

(c) Common Facilities -

Lounge

Kitchen and Cafeteria

(d) Dormitory Block

(e) Others.

(2) Equipment:

(a) General Education

(b) Basic Nursing Technique

(c) Maternal Health

(d) Child Health

(e) Community Health

(f) Geriatrics.

*S.N.*

4/...

*db*

7. The Undertaking of the Japanese Study Team:

- (1) The study team will carry out further examination for the Project. And above results will be incorporated in the Draft of the Basic Design Study Report which will be submitted to the Government of Fiji.

After the explanation and mutual discussion on that Report, the study team will make the Final Report on the Project.

- (2) The study team will convey the desires of the Government of Fiji to the Government of Japan that the latter will co-operate to the Project within the scope of Japanese economic co-operation in grant form.

8. The Major Undertakings to be taken by both Governments:

The Government of Fiji and the Government of Japan will take necessary measures as listed in Appendix IV on condition that the grant assistance by the Government of Japan is extended to the Project.

S.N.

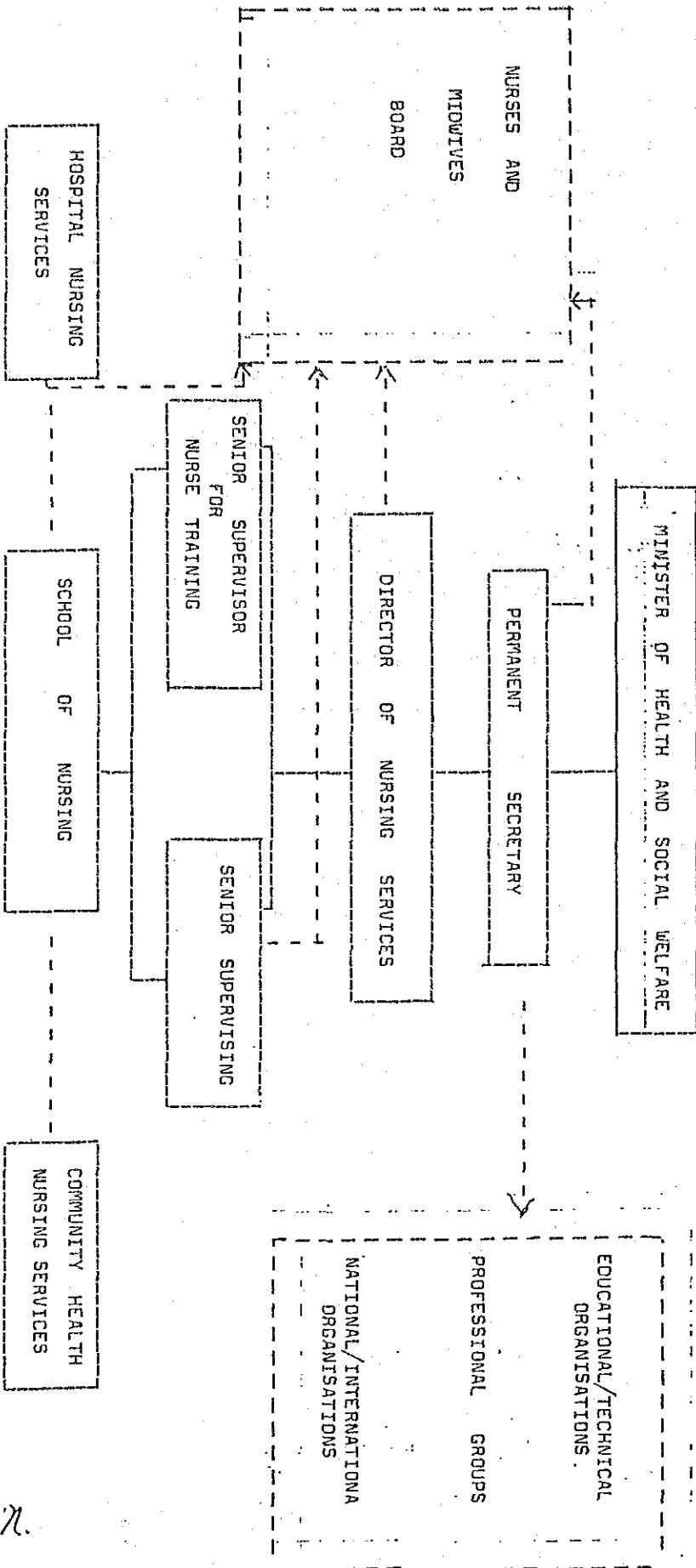
AB

THE FIJI SCHOOL OF NURSING

In the

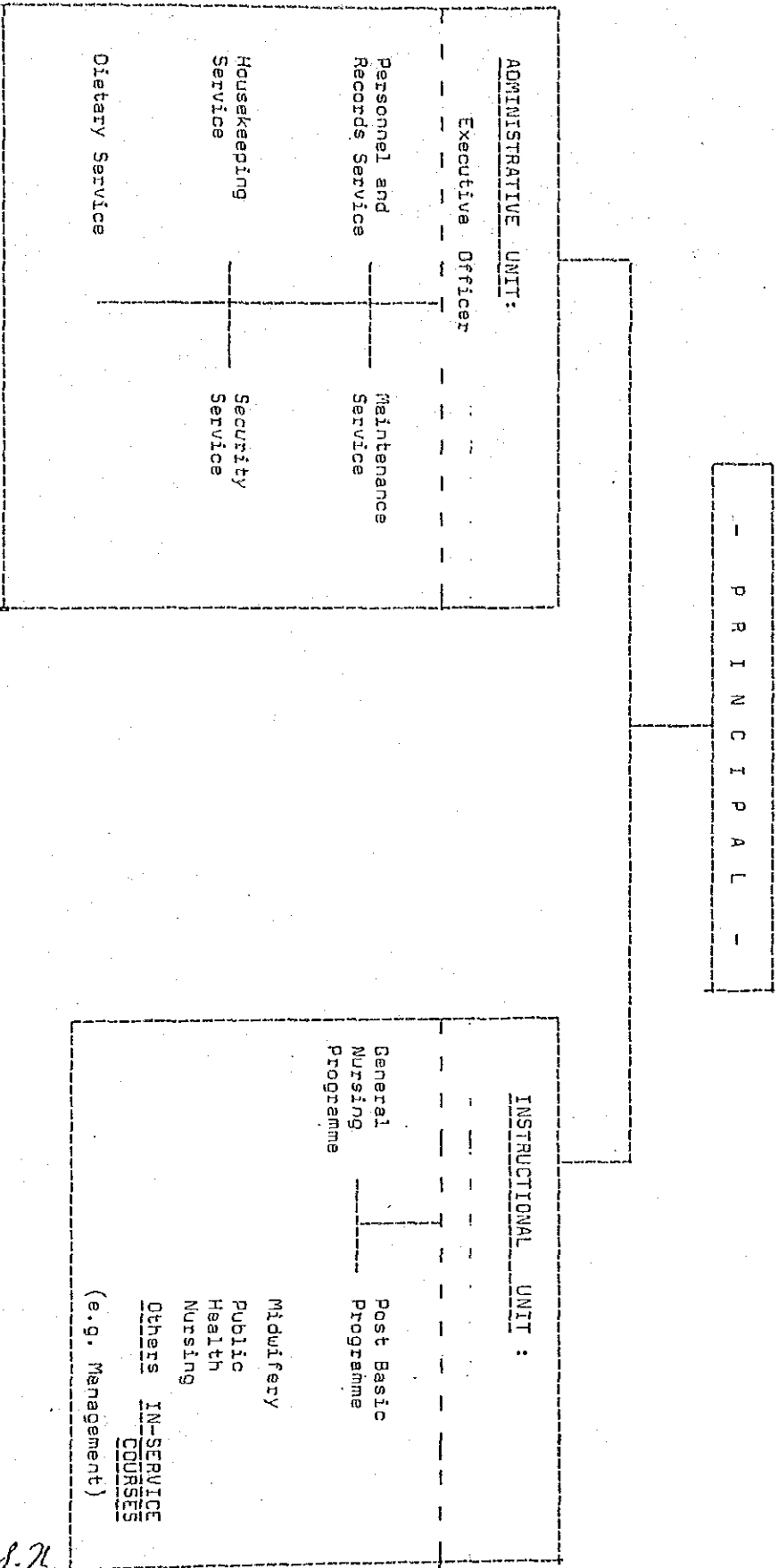
MINISTRY OF HEALTH AND SOCIAL WELFARE,

1 9 8 3

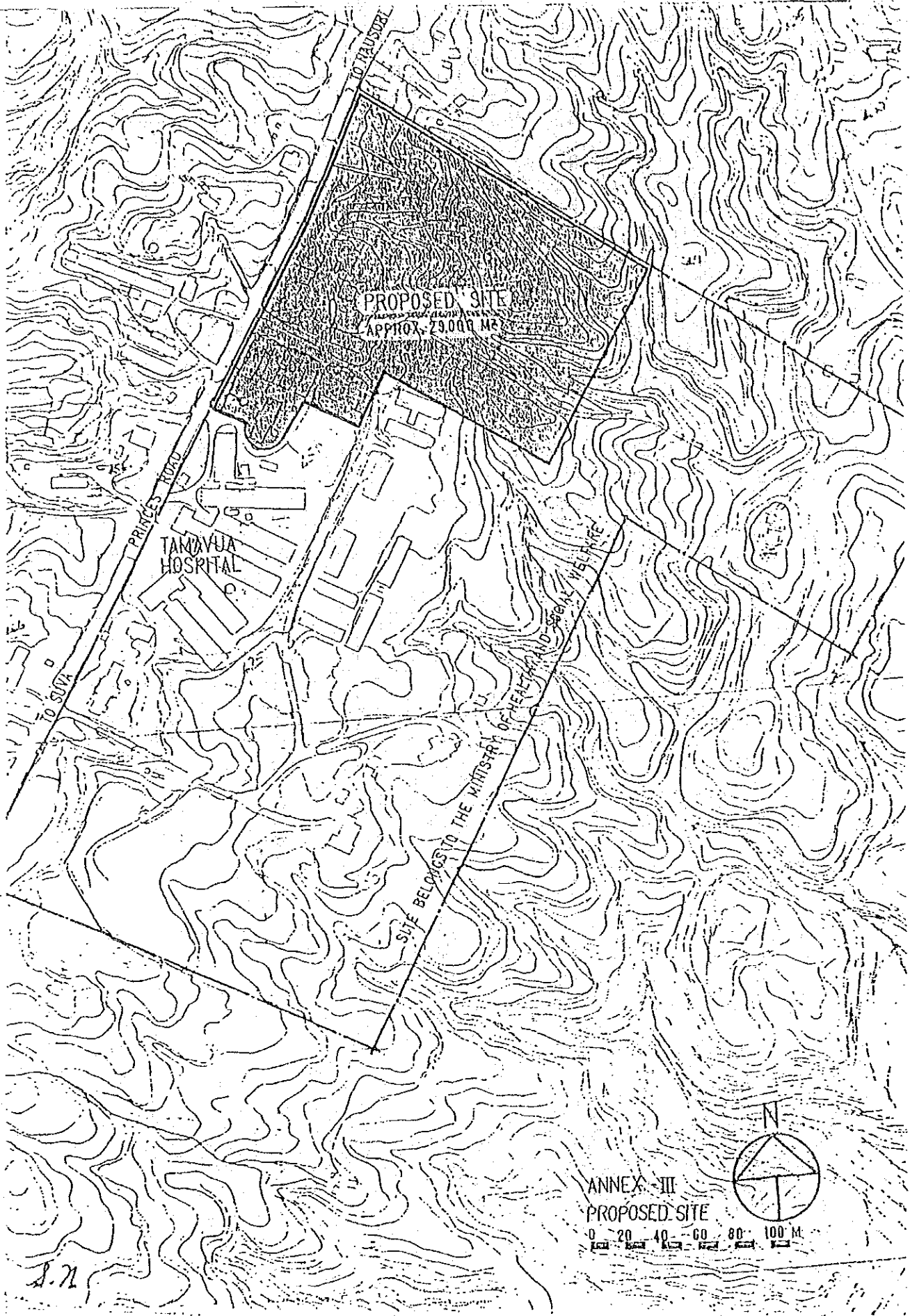


ORGANISATIONAL CHART

NEW FIJI SCHOOL OF NURSING (PROPOSED).



8.71



APPENDIX IV

MAJOR UNDERTAKINGS TO BE TAKEN BY BOTH GOVERNMENTS

No.	Items	Japanese Side	Fijian Side
1	To secure a lot of land		o
2	To clear, level and reclaim the site when needed		o
3	To construct the gate and fence in and around the site		o
4	To construct the parking lot	o	
5	To construct the road		
	1) Within the site	o	
	2) Outside the site		o
6	To construct the building	o	
7	To provide facilities for distribution of electricity, water supply, drainage and other incidental facilities		
	1) Electricity		
	a. The distributing line to the site		o
	b. The drop wiring and internal wiring within the site	o	
	c. The main circuit breaker and transformer	o	
	2) Water Supply		
	a. The city water distribution main to the site		o
	b. The supply system within the site (receiving and elevated tanks)	o	
	3) Drainage		
	a. The drainage city main (for storm, sewer and others) to the site		o
	b. The drainage system (for toilet sewer, ordinary waste, storm drainage and others) within the site	o	
	4) Gas Supply		
	a. The city gas main to the site		o
	b. The gas supply system within the site	o	
	5) Telephone System		
	a. The telephone trunk line to the main distribution frame/panel (MDF) of the building		o
	b. The MDF and the extension after the frame/panel	o	
	6) Furnitures and Equipment		
	a. General furnitures (carpet, curtain, table, chair and others)		o
	b. Project equipment	o	

*AS*

*S.N.*

contd. next page.



No.	Item	Japanese Side	Fijian Side
8	To bear the following commissions to the Japanese foreign exchange bank for the banking services based upon the B/A.		
	1) Advising commission of A/P.		o
	2) Payment commission		o
9	To ensure unloading and customs clearance at port of disembarkation in recipient country.		
	1) Marine (Air) transportation of the products from Japan to the recipient country.	o	
	2) Tax exemption and customs clearance of the products at the port of disembarkation.		o
	3) Internal transportation from the port of disembarkation to the project site	o	
10	To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and the services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into recipient country and stay therein for the performance of their work.		o
11	To maintain and use properly and effectively that the facilities constructed and equipment purchased under the Grant.		o
12	To bear all the expenses other than those to be borne by the Grant, necessary for construction of the facilities as well as for the transportation and the installation of the equipment..		o

*db*

*S.N.*

### 3. 基本設計確認調査

#### (1) 基本設計確認調査団の構成

基本設計確認調査は、昭和59年2月25日より3月4日迄の9日間に渡り実施された。団員の構成は下記の通りである。

団長	永野 貞		財団法人 国際看護交流協会 理事
団員	木 邨 洗 一	計画・管理	国際協力事業団 無償資金協力部
団員	井 上 慎 一	建築計画	俵梓設計 海外事業室部長
団員	小 川 穂 積	建築設計	俵梓設計 海外事業室主任

#### (2) 基本設計確認調査団の日程

昭和59年2月25日～3月4日(9日間)

日順	日月	曜日	行 程	調 査 内 容
1	2月 25日	土	東京	
2	26	日	ナンディ → スバ	
3	27	月	スバ	・ 日本大使館、外務省、大蔵省(Aid Unit)表敬、打合せ 保健省打合せ
4	28	火	Aチーム スバ → タマプア Bチーム スバ → ナウリン	・ サイト補足調査、建築関係補足調査 ・ ナースステーション、ヘルスセンター、病院 視察調査 ・ VALELEVU Health Center, ・ NAUSORI Materning Unit, ・ WANIBOKASI Hospital, ・ NAVAKA Nurse Station
5	29	水	スバ スバ → タマプア	・ 保健省打合せ ・ サイト補足調査
6	3月 1日	木	スバ	・ PWD及び保健省打合せ
7	2	金	午前 スバ	・ 保健省打合せ、MINUTES署名 ・ 日本大使館、大蔵省(Aid Unit)へ報告
8	3	土	午後 スバ → シガトカ シガトカ → ナンディ	・ ナースステーション、ヘルスセンター、病院 視察調査 ・ NAVUA Health Center & District Hospital, ・ CALOA Nursing Station ・ KOLOVICILOU Health Center
9	4	日	東京	

MINUTES OF DISCUSSIONS

ON

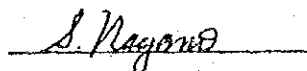
THE DRAFT REPORT OF THE BASIC DESIGN STUDY ON  
THE PROJECT FOR THE NEW FIJI SCHOOL OF NURSING

The Government of Japan has sent, through Japan International Cooperation Agency (JICA), a Basic Design Study Team headed by Ms. Sada NAGANO (Director, the International Nursing Foundation of Japan) to Fiji from 26th February to 3rd March, 1984 for the purpose of submitting and explaining of the Basic Design Study Report (the Report) on the Project for New Fiji School of Nursing (the Project).

The Team held meetings with the authorities concerned of the Government of Fiji to explain and discuss on the Report. As a result of the discussions, both parties have agreed as follows;

1. The Report principally satisfied the Fiji side, and appropriate amendments, supplements and Plan A in the Report agreed during the discussions will be incorporated in the Final Report.
2. The Final Report (10 copies in English) on the Project will be submitted to the Government of Fiji by the end of May, 1984.

2nd March, 1984

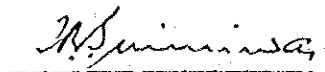


Ms. Sada NAGANO

Team Leader,

Japanese Study Team

JICA



Dr. T.M. BIUMAIWAI

Permanent Secretary,

Ministry of Health and Social

Welfare

#### 4. 資 料

##### (1) 医療関係資料

フィジーの基礎医療資料を次に示す。

表A-1 平均寿命 (1976年統計)

	男	女
フィジー人	60.7才	63.9才
インド人	59.5才	62.4才

表A-2 死 因 (1981年統計)

1. 循環系疾患	22.9%
2. 悪性新生物	12.1%
3. 感染症、寄生虫	10.7%
4. 呼吸系疾患	10.2%
5. 周産期障害	8.1%

表A-3 出生率・死亡率 (1980年統計)

出生率	人口千人当り	32.6	(日本13.6)
死亡率	人口千人当り	5.7	(日本6.2)
新生児死亡	新生児千人当り	19.0	(日本7.5)
周産期死亡	出生千人当り	32.7	(日本11.7)

※ 1981年に周産期死亡は28.8と低下している。

表A-4 疾病率 (1981年統計)

1. 呼吸系疾患	8.3%
2. 事故・中毒・暴力	7.7%
3. 循環系疾患	6.5%
4. 泌尿生殖器系・感染性・寄生虫疾患	6.0%
5. 消化器系疾患	4.5%

表A-5 届出疾病の推移 (人口1,000人当り, 1981年統計)

疾 病	1976	1977	1978	1979
インフルエンザ	64.8	38.4	36.2	69.1
小児下痢	8.6	9.4	10.3	7.7
はしか	0.2	2.4	0.4	1.6
性病	0.9	1.1	1.4	1.5
水痘	0.2	0.4	0.4	0.3
結核	0.3	0.3	0.2	0.2
小 計	75.0	52.0	48.9	80.4

表A-6 届出疾病罹患率  
(人口1,000人当り, 1981年統計)

インフルエンザ	141.4
小児下痢	13.5
はしか	15.3
性病	26.4
水痘	0.55
結核	0.27
トラコーマ	0.24
食中毒	0.19
脳膜炎	0.17

(2) W・H・Oと南太平洋諸国

1) W・H・O

国連、世界保健機構(W・H・O)サブ事務所は、南太平洋地域を担当している。マニラに駐在するWHO地域局長管轄下にサブ事務所は36人の国際スタッフ(International Staff)と10人のコーディネーターにより構成され南太平洋の19の諸国をカバーしている。

36人の国際スタッフのうち、23人はフル・タイムの職員として南太平洋諸国に派遣されている。

表A-7 南太平洋諸国への派遣スタッフ

クック諸島…………… 1	ソロモン諸島…………… 6
フィジー…………… 3	トンガ…………… 4
キリバツ…………… 1	太平洋信託統治地域…………… 1
サモア…………… 4	バヌアツ…………… 3

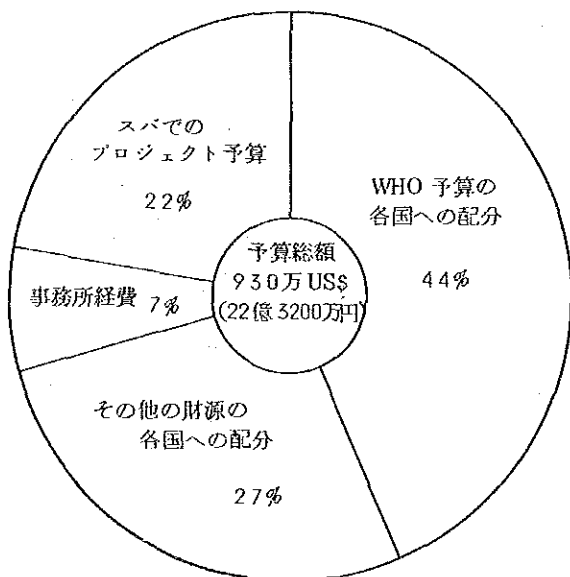
スバ事務所には、13人の専門スタッフと10人の管理スタッフおよび秘書が勤務している。アルマ・アタ（Alma-Ata）で宣告された“2000年までに全ての人々に健康を”の目標達成を目指した政策を立案して活動している。

スバ事務所は次の二項目を行動原理として南太平洋諸国で積極的に活動しており、母子保健・家族計画・環境保健（給水・排水・汚染・食物）に力を入れている。

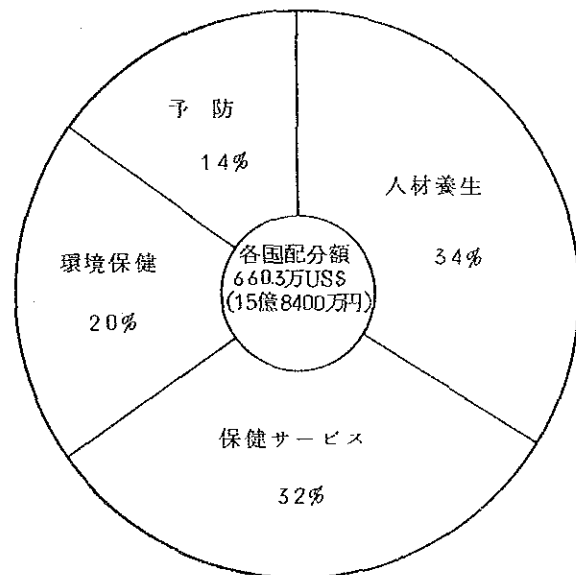
- 1) 治療手段をうまく統括した予防手段の確立に力をそそぎ、
- 2) その国の総合された保健システムの一部となり、保健サービスの主要な代理者となること。

スバ事務所の予算は1980-81年度で2,232百万円（9.3百万US\$）で図A-1のように分配されている。

そのうち71%を占める各国への割当額はA-2のように使われている。適切な能力をもった医療保健の人材養成に重点を置いていることが理解できる。



図A-1 WHOスバ事務所の予算



図A-2 各国割当額

## 2) 南太平洋諸国

WHO スパ事務所の担当する南太平洋諸国は3000万km<sup>2</sup>の広がりの中にわずか3% (9万km<sup>2</sup>)の陸地をもっているのみで、その陸地は約1万の島々から構成されている。18の独立国と近い将来独立が期待されている4つの島々がある。

人口は南太平洋諸国を合計して約200万人である。人口密度は10人/km<sup>2</sup>(メラネシア)から100人/km<sup>2</sup>(サモア・ナウル・トケラウ・トンガ・ツバル)であるが、人口増加率は年2%程度で、サモアなど、ニュージーランド、オーストラリア・ハワイ・アメリカ・カナダへの移住で10%の人口を減じている国もある。しかしながら国連の人口問題活動基金(UNFPA)が重点国としてあげている諸国のなかに5ヶ国、キリバツ・サモア・ソロモン・トンガ・ツバルが入っている。

1人あたりの収入はフィジーとアメリカ信託統治地域を除けば200~400\$で、サモアは最貧国となっている。

農業・漁業がこれら諸国の主要産業であるが、高いインフレーションに直面し、エネルギー危機に直撃されている。

南太平洋諸国の保健医療サービスは、全て公的な機関によって実施されており、地域病院—ヘルス・センター—ナース・ステーションの組織化された医療システムがある。

これらのシステムで働く医者と医療技術者のほとんどはフィジーの医学校で養成され、卒後教育をニュージーランドで受けている。

小さな国を除くほとんどの国は基礎コースの看護婦養成学校を持っているが、卒後教育はフィジーとニュージーランドに頼っている。

WHOは1981年の報告書にて、保健医療サービス分野の人材で最も大きな位置を占めるのは看護婦であるとして、外科医より上位に置いている。人口300人あたり1人の看護婦が居て、数のうえでは妥当であると評価しているが、全ての国で50%以上の看護婦は病院に勤務しており、人口希薄な外島の島々には、ほとんど配属されていないと指摘している。

人材配置計画における最も重要なことは、どんな住民もヘルス・ワーカーに容易に接触できることであり、特に監督・管理する人材の総合レベルを引上げることでありとしている。

これがあって始めて、プライマリーヘルスケアを計画・実施することが可能となると述べている。





JICA

1997